

『第21回石川県書写書道教育研究大会集録』の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長

第21回石川県書写書道教育研究大会長

宮下 孝晴

第21回は、数字の上から見ても当連盟の歴史を刻む第三サイクル目に入る記念すべき大会です。創設当初から当連盟を育て支えてくださった藤則雄先生からのご依頼を受けて、私が会長を引き継ぎ、初めての大会開催ということで、重い責任と大きな期待を感じないわけにはいきませんでした。ただ、正直なところ、それ以上に私個人としては自分を巻き込んでいく不思議な運命の渦の流れを感じています。西洋美学の視点で「書」を見つめてみようと、東京学芸大学書道科を卒業してまもなくの私は、大学紛争で混乱していた日本の大学を離れ、イタリアに留学しました。やがてフィレンツェ大学の美術史コースを卒業した私は、金沢大学の西洋美術史を担当する教員として11年ぶりに帰国し、その結果、当然ながら書家としての私は公的な名刺の陰に隠れてしまうことになったのです。

「書」を新たな地平で見つめなおそうとした時から40年近い歳月が流れ、金沢大学には西洋美術史の教員として着任したにもかかわらず、藤先生や法水先生、さらには押木先生までも、私の出発点を忘れずにいてくださったことは意外な驚きであったと同時にうれしいことでもありました。墨をすり筆を執ることなどめったになくなってしまった私ですが、私を私たらしめている血には還暦を過ぎた今もなお書への熱き思いが、あの青春時代と同じようにたぎっているからです。

書の世界に舞い戻った私が垣間見たのは、青春時代に私が抱えていた書に関する問題とは別に、デジタル化の支配が急激に進む中で新たな問題も加わり、書教育の現場ではさまざまな試行錯誤が飛び交っている現状でした。「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」をテーマに掲げた今大会でも、そのことを痛感しました。示唆に富んだ貴重な発表を、継続的に発展研究することが私たちの使命でしょう。

平成22年度における各種の活動や研究大会の開催に多大のご尽力をいただいた実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に携わってこられた役員の方々、とりわけ永江芳教理事長、中川晃成副理事長、岩田稚子事務局長、八田和幸副事務局長、さらには今大会で発表された諸先生方に感謝と敬意の意を表します。また、ご多忙中にもかかわらず、今大会にご出席いただき、貴重なご意見やご助言をいただきました藤則雄名誉会長、相談役の氷田茂良先生、法水光雄先生、押木秀樹先生にも心からお礼を申し上げます。

目次

1. はじめに	1
2. 第21回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究発表会Ⅰ・研究協議会Ⅰ報告	7
「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」	
◇第51回 全日本書写書道教育研究会（愛知大会）参加報告	
黒川 なつき（白山市立蝶屋小学校）	
◇第35回 全日本高等学校書写書道教育研究会（神戸大会）参加報告	
田中 学（石川県立金沢中央高等学校）	
研究協議会Ⅰのまとめ	
4. 研究発表Ⅱ・研究協議Ⅱ報告	29
「授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～」	
—小学校—	
◇ 実践発表	
「筆づかいの定着をめざす授業の工夫～己解決のためのコンテンツ活用～」	
飯田 淳一（内灘町立清湖小学校）	
研究協議会Ⅱ（小学校）のまとめ	
—高等学校—	
◇ 実践発表	
「仮名の書の指導法～高野切第三種の臨書に至るまで～」	
東 智子（石川県立金沢北陵高等学校）	
研究協議会Ⅱ（高等学校）のまとめ	
5. 大会に参加して	45
齋藤 雅実（坂井市立東十郷小学校）	
池崎 美枝子（日本航空高等学校石川）	
6. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	47
7. 平成22年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	53
8. 石川県書写書道教育連盟規約	54

第 2 1 回 石川県書写書道教育研究大会

平成22年12月3日(金)

第21回

石川県書写書道教育研究大会

金沢市教育プラザ富樫

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
— 自ら発見し、学びを深める書写書道教育 —

主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：金沢市教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

日程

13:00～13:30
受付

13:10～13:30
理事会

13:40～14:00
全体会

14:00～15:00
研究発表Ⅰ(小)
研究発表Ⅰ(高)
研究協議会Ⅰ

15:10～16:35
研究発表Ⅱ(小)
研究協議会Ⅱ(小)
研究発表Ⅱ(高)
研究協議会Ⅱ(高)

全体会

[13:40~14:00]

石川県書写書道教育連盟 会長 挨拶
来賓紹介

研究発表 I・研究協議会 I [14:00~15:00]

書写書道教育における今日的課題

～全国の実践を受けて～

① 第 51 回 全日本書写書道教育研究会（愛知大会）参加報告

発表者： 黒川 なつき 先生 （白山市立蝶屋小学校 教諭）

② 第 35 回 全日本高等学校書道教育研究会（神戸大会）参加報告

発表者： 田中 学 先生 （石川県立金沢中央高等学校 教諭）

司 会： 濱田 美恵子 先生 （金沢市立四十万小学校 教頭）

記 録： 北野 京子 先生 （津幡町立中条小学校 教諭）

研究発表Ⅱ・研究協議会Ⅱ [15:10～16:35]

授業実践に向けての具体的手立てを探る

～授業実践から～

③ 実践発表

「筆づかいの定着をめざす授業の工夫 ～自己解決のためのコンテンツ活用～」

発表者： 飯田 淳一 先生 (内灘町立清湖小学校 教諭)

助言者： 新村 裕二 指導主事 (金沢教育事務所)

司 会： 不破 恵美子 先生 (白山市立旭丘小学校 教頭)

記 録： 四谷 晶子 先生 (白山市立松陽小学校 教諭)

④ 実践発表

「仮名の書の指導法 ～高野切第三種の臨書に至るまで～」

発表者： 東 智子 先生 (石川県立金沢北陵高等学校 講師)

助言者： 中川 素子 主任指導主事 (石川県教育委員会学校指導課)

司 会： 水上 真由美 先生 (石川県立金沢商業高等学校 教諭)

記 録： 出村 礼子 先生 (尾山台高等学校 講師)

研究発表 I ・ 研究協議会 I 報告

大会参加レポート

研究協議会 I のまとめ

第51回 全日本書写書道教育研究会 愛知大会 参加報告

白山市立蝶屋小学校 黒川 なつき

1. 大会概要

大会テーマ 『生涯学習の基礎・木本を築く書写書道教育』

小学校テーマ 「生活や学習の場で生きる書写能力の育成」

中学校テーマ 「文字文化を意識した書写能力の育成」

高等学校テーマ 「生涯にわたって書に親しみ、愛好する態度の育成」

大学テーマ 「書写・書道教育に資する学校教育支援のあり方」

日程 研究発表

分科会（研究協議）

総会・全体会

記念講演

併せて、終日、児童制度書写書道作品展の開催

2. 小学校部会 研究発表

研究発表①「相手意識を高めて取り組む書写指導」

津島市立南小学校 竹島 美江教諭

研究発表②「書写で学習したことを他教科に生かす授業」

名古屋市立東白壁小学校 近藤 かほる教諭

研究発表③「相手に思いをこめて書く書写指導」

豊橋市立花田小学校 加藤 志織教諭

研究発表①「相手意識を高めて取り組む書写指導」(2年生)

(1) 単元 心のこもったおもてなしをしよう ～招待給食を成功させよう～

(2) 目標

- ・招待給食の活動を通してお年寄りを尊敬する気持ち、優しく接する態度を育てる
- ・お年よりの方々を給食に招待し、会食するとともによりふれあいを深める。

◎読みやすい横書き・縦書きの書き方を知り、文字を通して相手に気持ちを伝える。

(3) 単元の指導計画

時	内容・目標	評価
1・2 学活	「招待給食の計画を立てよう」 ・招待給食への関心をもち、お年寄りの方に気持ちよく過ごしていただくため、何をするかを話し合っ決めて。	・意欲的に話し合い活動に参加し、招待給食の内容を考えることができたか。
3 書写	「読みやすい招待状を書こう」 ・横書きの書き方を知る。 ・相手に読みやすい招待状を書く。 ・文字を通して気持ちを伝える。	・相手を意識しながら、横書きで、ぜひ来てほしいという願いを込めた読みやすい招待状を書くことができたか。
4 図工	「招待状を仕上げよう」 ・もらう相手が喜ぶような表現内容を考え、招待状を仕上げる。	・お年寄りの方に喜んでもらえるものを作ろうとすることができたか。
5 学活	「招待給食の準備をしよう」 ・招待給食の進め方、必要な係を考え話し合う。 ・話し合ったことをもとに準備する。	・役割にそって活動ができたか。
6 書写	「お礼の手紙を書こう」 ・縦書きの書き方を知る。 ・読みやすいように全体を考えながら書く。 ・文字を通して気持ちを伝える。	・相手を意識しながら、縦書きで、ありがとうの気持ちを込めた読みやすい手紙を書くことができたか。

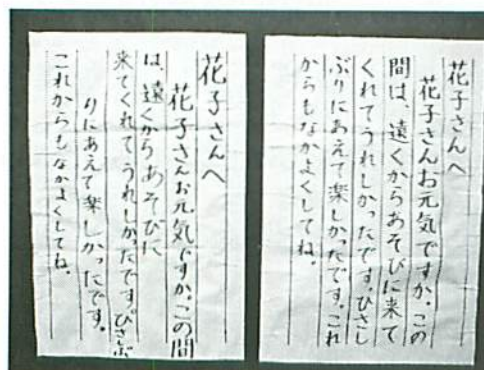
(4) 指導の実際

- ・横書きと縦書きの書き方の指導（第3・6時）

用意した2つの例を比べさせ、話し合う中で、縦書き・横書きのポイントに気づかせていった。試し書きのあとに、学習プリント、本番という順番で学習を進めていった。

- ・鉛筆の持ち方、動かし方の定着を目指して「えんぴつ体操」

例

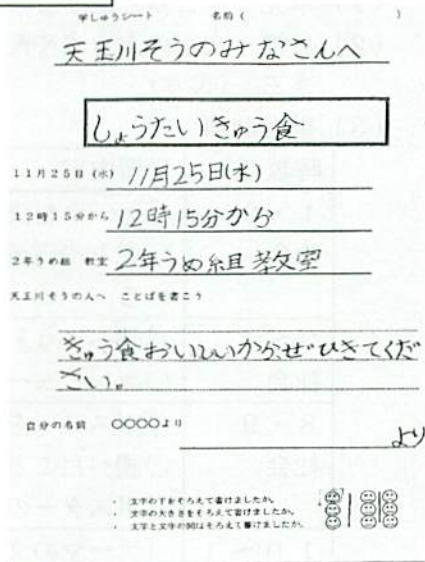
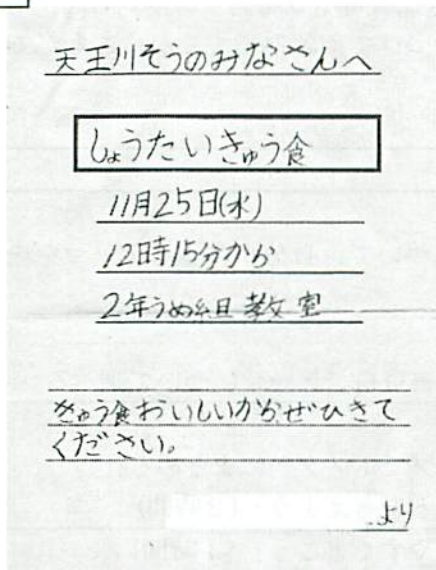


試し書き

☆「あい手の名前」と「会の名前」を書きましょう。

天王川そうのみなさんへ

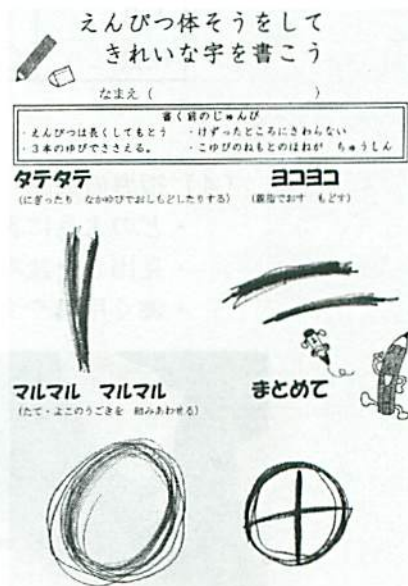
しょうたいきゅう食



えんぴつ体操プリント

(5) 成果と課題

- ・相手意識をもたせたので、やる気が高まり、読みやすく書こうとする意識をさらに高めて取り組めたようだ。
- ・縦書き・横書きのポイントを話し合わせたことで、多くの児童がポイントを意識しながら書くことができた。(それを、題字やプログラムにも用いている姿も見られた。)
- ・子どもたちがもっと書写での学習事項を日常に活かせるように指導の工夫して行くことが必要。



研究発表②「書写で学習したことを他教科に生かす授業」(4年生)

- (1) 単元 「ごみと住みよいくらし」(社会科10時間+書写3時間)
 (2) 目標 文字の大きさや配列に気をつけて、読みやすく書くことができる。(書写)

(3) 単元計画

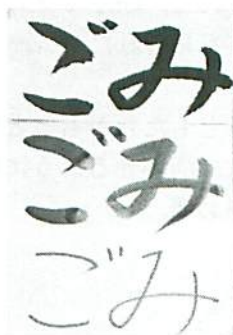
時数	学習内容
1・2 社会	『テーマを決めよう』 ○ごみや資源の行方について、自分が調べるテーマを決める。
3～7 社会	『調べよう』 ○コンピューターや図書資料でテーマについて調べる。
8・9 社会	『ポスターを作ろう』 ○調べたことをグループでポスターにまとめる。 「ポスターのレイアウトを考えよう」(2時間)
10～12 書写	「テーマの文字を読みやすく書こう」(1時間) ・文字の大きさ、色、筆記用具を工夫して見出しを書く。 「ポスターを完成させよう」(2時間) ・正しく整った文字でポスターを書く。
13 社会	『発表しよう』 ○調べて、まとめたことを発表する。

(4) 指導の実際

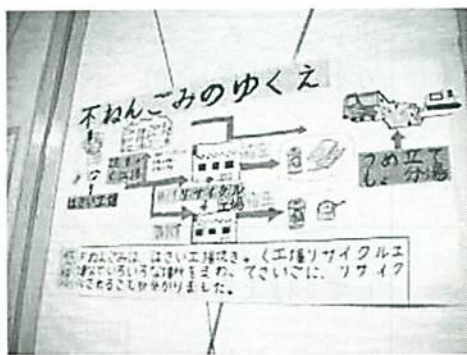
- ・どのように書かれた文字が読みやすい文字か考えさせる。
- ・見出しを読みやすく書くための工夫を考えて、活動する。
- ・書く用具や文字の色を工夫させ、選ばせる。



読みやすく書くため下線を引く



道具・色を選ばせる
 (上段：筆 中段：絵の具の筆 下段：ペン)



完成したポスター

(5) 成果と課題

- ・ 以前作ったポスターより読みやすく書かれていた。
- ・ すべての児童が書く文字が違うので、「手本」を用意することが難しい。字形を整えたり、よい配列で書いたりするための個別の支援を工夫していく必要がある。

研究発表③「言葉に思いをこめて書く書写指導」(6年生)

(1) 単元 (明記なし)

(2) 目標

- ・ 自分の思いを大切に、気持ちをこめて丁寧に字をかくことができる。
- ・ 色紙の大きさや余白に注意し、文字の大きさや字配りを意識して整った字を書くことができる。

(3) 単元計画

時	子どもの主な活動	評価
1	色紙に書きたい言葉を考えよう！	・ 意欲的に学習に取り組み、好きな言葉を考えることができる。
2	試しに1回書いてみよう！	・ 自分なりに既習事項を生かして丁寧に字をかくことができる。
3	自分だけの手本を作ろう～ パソコンで手本を作る～	・ 文字の大きさや余白に気をつけて手本を作ることができる。
4	自分だけの練習プランを考えよう！ ～課題みつけ→プランを考える→練習用ワークシート作り～	・ 自分の課題をみつけ、それに対する練習方法と計画を考えることができる。

5 ~ 7	思いをこめて真剣に書こう！（練習①～③） 自己評価	・自分のめあてにあった練習方法に沿って、意欲的に取り組むことができる。 ・注意すべき部分に気をつけて、丁寧に字を書くことができる。
8	友達の作品にアドバイスを してあげよう！ 相互評価	・友達の作品のよいところを見つけることができる。
9	最後の練習をしよう（練習④）	・友達からのアドバイスを取り入れながら、真剣に取り組むことができる。
10	今までの練習を大切に して色紙に書こう！ 自己評価	・字配りや文字の大きさなどに気をつけて書くことができる。 ・これまでの練習や友達のアドバイスを基に整った字をかくことができる。

(4) 指導の実際

- ・ 思いを大切に書いて書く場の設定
校長先生や担任、他の児童の作品を通して、色紙に書く意欲をくすぐった。また、卒業前の今しかできない活動であることを伝え、節目にあう言葉の選択をさせた。
- ・ 自分なりの課題作りをする
パソコンのワードアートを使って、手本を作った。
- ・ 課題作りをし、自分だけの練習プランを立てる。
手本と試し書きを比較することで課題を考えさせる。また、そのためにはどのような練習用シートが必要かを考えさせた。
- ・ 自分の課題に沿って練習する。
自分の練習プランに沿って練習を進める。毎時ふりかえりカードで振り返りをした。また練習プランは適宜変更も可能で、例えば練習が始まってから名前が課題と感じるようになった児童は、プランを変更して、名前練習に1時間を取り入れたりもした。



単元の初めにみせた色紙

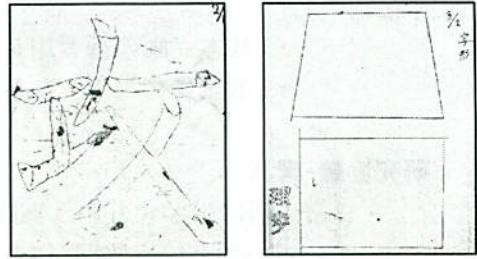


パソコン手本作り

卒業に寄せてのことばを書き直そう

練習シート	笑顔	笑顔	笑顔
コメント	ムズかしいかな ?と思っただけ かどやいやす かたてやす	字がハズレた てしまっました でも自分の調子 習得しました	字の形がよくな ったので本番の やり気もよくな りました
練習シート	笑顔	笑顔	笑顔

最初と比べて
最初がバババほとんどバランスが悪いし字形もなめた
字形もバランスも上手くなった

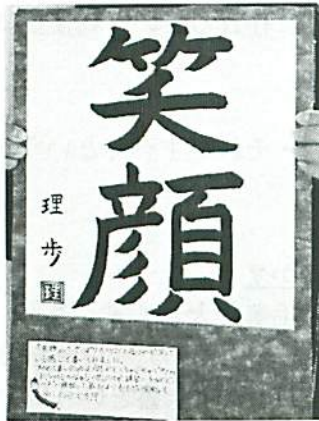
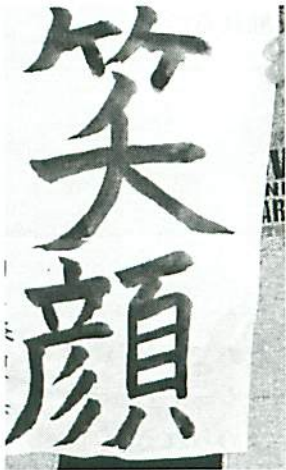


練習シート (右:字形 左:始筆)

←振り返りシート



練習シート
(右:始筆 左:書き順)



試し書きと本番の比較 (右:本番 左:試し書き)

(5) 成果と課題

- ・卒業という節目に向けての今しかできない取り組みということで、意欲的に取り組んでいた。
- ・自分で練習用シートを作らせたり、課題を考えさせたことで、どこに気をつけて書くのかが明確になった。
- ・パソコンを使って手本を作ったので、正しく整った文字がある程度明確になり、大きさや配列を調整することができた。

- ・ 基本点画の練習用シートは、既成のものを用いてもよかった。
- ・ 筆記具を工夫したり、墨色を変えたりしてもよかった。

研究協議・講評

- ・ 日常生活に生かすという実践発表ばかりだったが、基礎基本の指導はどうしているのかという質問があった。教科書に沿って、やっているようで、具体的な方法については話されなかった。
- ・ 司会者から、フロアに対し日常生活に生かす実践で他になさったことはあるかとの問いかけがあり、郵便葉書コンクールに応募したことが挙げられていた。

- ・ 研究協議で少し話題になった、パソコンの手本について講評で取り上げられた。

パソコン手本は手本となりうるのか？

形・輪郭線のみ	← 筆遣い・勢いがいい
フォント	← 書き取りで×になるものも
レタリング的	学習指導の文字とちがう

※ 多忙の中で、手軽に作れるという利便性にも触れる。



書写での指導・・・形がいい・それがすべてという風潮
慎重さが大切

毛筆がなんのために扱われるのか？

硬筆でわかりにくいところを、毛筆で大きく書くこと

←表現のためではない

※書写は、整った書き文字・機能的な文字＝書という固定のイメージを植えつける危うさがある。一方、高校では、自由な・多様な書が求められる。

3. 記念講演

「新学習指導要領とこれからの書写書道教育」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 加藤泰弘氏

(1) 学習指導要領 国語科書写・芸術科書写の改訂のキーワード

・言葉／言語活動

人間にとって、言葉は基盤。言葉は、思考、書くことを支える大切な活動である。

・伝統と文化

「手書き」は文化である。

これまでの「技能」に文化的視点を加えて考えていくことが大切。

(2) 国語科・書写の改訂

《小学校》 ・ 実際の日常生活や学習活動に役立つ力の育成

・ 指導内容の追加 中学年…「筆圧」

高学年…「書く速さ」「穂先の動き」

「点画のつながり」

《中学校》 ・ 文字文化に関する認識や、それらに親しむ態度の育成
(芸術科・書写との接続)

・ 授業時数の明文化

「第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること」

《全体》 ・ 結果(作品)ばかりでなく、過程に視点を当てていく。

(3) 芸術科・書写の改訂

・「書写Ⅰ」「書道Ⅱ」の目標に、「生涯にわたり書を愛好する心情」を追加。

・学習内容 学習の深化

書道Ⅰ 「名筆を生かした表現」(書道Ⅱより移行)

書道Ⅱ 「名筆の鑑賞に基づき表現を工夫」

4. 参加しての感想

- ・ 学習指導要領の改正によって、「実際の生活に役立つ力の育成」が加えられ、注目されているようである。今回の小学校部会の発表でも二つの発表がこの分野の研究発表だった。どちらも時流をとらえた内容で、苦心・工夫されており、新学習指導要領の下での授業の取り組みとして、とても参考になった。

ところで、研究発表②の近藤教諭が課題として「どの子も違う文字を書くので、『手本』の用意は難しい。個別の支援の工夫が必要である。」と述べられていた。これはおそらく、この新しい分野に取り組んでいったのではどの方も突き当たるであろう課題であり、研究を進めていくと面白そうなどころではあると感じた。しかし、一方で、共通の課題のもとで、手本もあり、字形や配列についてみんな考えて取り組んでいく従来の学習指導がさらに大切になってくるのではないかと感じた。それらの基礎・基本を踏まえた上で「実際の生活に役立つ」学習活

動ができると思うからだ。

自分としても、この基礎・基本の授業の工夫やあり方について考えていきたいと思う。

- ・ 「手本」ということが、協議会・全体講評でも話題になった。

小学校の研究発表でパソコン手本を用いたとの報告があったが、中学校部でもそのような発表があったそうである。自分は、小学校の発表を聞きながら違和感を覚えていたが、全体講評で平形精一教授（静岡大学）がとてもデリケートな話題として言葉を選びながらいろいろお話して下さった。教授は、パソコン手本の良いところ悪いところを述べられ、方向付けはなされなかったが、話を聞いている時私は否定的な立場だった。

しかし、自分を振り返ると、書写バックについてくる子どもの名前の手本（パソコンで作成されたであろうもの）を重宝がっている自分もいた。書写の授業で必ず名前を書くことになるが、一人一人の名前の手本を用意するのはやはり難しく、字の形だけでも見本になるものがあるのがとても助かっていた。

手書き手本がよいのは誰でも分かっていることである。しかし、実際のところ、授業準備の時間の制限、手書き手本を書く腕がないなどのことを考慮すると、パソコン手本は「あり」ではないかと私は思う。これからもしも、書写的に標準的なフォントの作成がされると、全国の先生が助かり、かつ子どもも少しは救われるのかなと思われる。（実に難しいこととは思われますが。）

- ・ 発表の余話として、新たな価値観「手書き文字だと相手に申し訳ない」という意識も生まれてきていることが紹介されていた。私はとても驚いたが、パソコンでデザインされた文字を自在に使用できるようになった今、整った字を書けないと苦手意識のある人はそのように思うのも分かる気がする。

これまで、整った文字を重視する風潮があったからこのような意識が生まれてくるのかなと思う。整った文字、整っていない文字という尺度ばかりでなく、丁寧にかかれた文字、丁寧に書かれていない文字などの尺度を通して、手書き文字のよさを実感させていくことがよいのではないかと考える。

普段なかなかじっくり書写書道について考える機会がなかったので、全国大会に参加し、いろいろな実践発表を聞いたことは、貴重な時間でした。ありがとうございました。

第35回 全日本高等学校書道教育研究会兵庫大会 報告

石川県立金沢中央高等学校 教諭 田中 学

大会テーマ

『生きる力を拓く書道教育』

～伝統と文化を活かし、感性豊かな人間づくりをめざして～

会期：平成22年11月11日（木）～12日（金）

会場：神戸市総合教育センター、ほか（県内の高等学校にて公開授業）

<参加>

A. 分科会

IV-1 「中高一貫における書写・書道～実践報告～」

（兵庫県 親和女子高等学校・親和中学校 岸教諭）

IV-2 「言語活動を重視した鑑賞教育の実践事例～リレー書道を通して学ぶ～」

（埼玉県 越谷西高等学校 深田教諭）

B. 情報交換会、全体会

・参加の動機

近年、中学での「書写」教育と高等学校での「芸術科書道」教育との連携について、いろんな声を耳にする。校種間での情報交換をする機会は少なく、また、それぞれの実情もある。今回、中高一貫で「書」教育を実施している学校から得るものがあるのでは、そう思ったのである。また、「リレー書道」については自分自身が生徒に紹介・実践したこともあり、同じ題材を他の方がどのように活用しているのか、という点に興味があったので、この分科会に参加した。

A. 分科会

IV-1 「中高一貫における書写・書道～実践報告～」

1. 概要

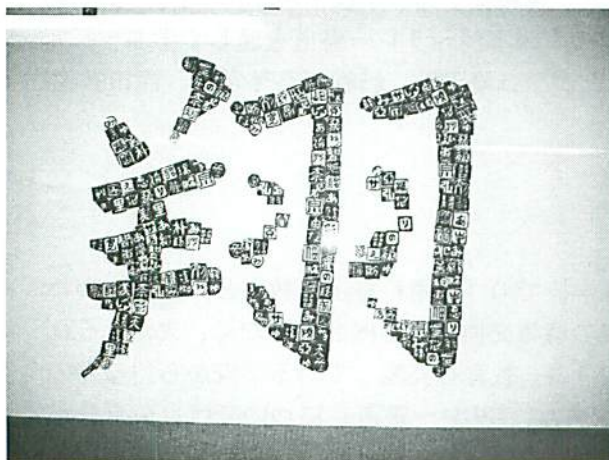
中学・高校六年一貫教育の女子校。中学1年から高校3年までの6年間、書写から書道へと継続して学ぶ生徒が多い。中学書写と高校書道との関連・発展などを念頭に、おいた指導を行っている（創立120余年の伝統ある学校）

@特色として…生徒向けの『スクールガイド』での紹介

「中学 習字」…国語科から独立した形で行われます。毛筆とともに硬筆も継続して学習します。楷書、行書、平仮名、漢字仮名交じりの書の基礎・基本を身につけます。三年生では、中国や日本の書の古典も学びます。毎年三学期には校内書き初め展を行って、一年間の学習の成果を試すとともに、優秀作品は神戸市小・中学校書き初め展に出品します。

「高校 書道」…中学までの書写と異なり、書を芸術の一分野として位置づけ、書の美を広く深く学んでいきます。また、毛筆とともに硬筆（ペン習字）を継続して学習します。図版・ビデオや拓本などを使用して中国や日本の先人の名跡（古典）を幅広く鑑賞するとともに、現代の書作品も積極的に味わいます。表現には古人の筆跡を見て書く「臨書」と独自の創意を生かした「創作」とがあります。「臨書」によって書の美の原理や精神・技法を学び、「創作」によって手本なしで独創性を大胆に打ち出します。また、篆刻（印を彫ること）・刻字（木に書字を刻すこと）・ろうけつ染めなどを随時取り入れています。

※また、必要に応じ、大学書道科への進路指導も行います。



2. カリキュラム

・親和中学校教育課程表

	国	社	数	理	英	音	美	習字	保体	技家	総合	道徳	特活	計
1年	4	4	4	4	5	2	2	1	3	2	2	1	1	35
2年	4	4	5	4	5	2	2	1	2	2	2	1	1	35
3年	5	4	5	4	5	1	1	1	3	2	2	1	1	

※総合学習の1時間は英会話。もう1時間分（年間35時間程度）は宿泊旅行や他の特別活動を当てますから、1週間の時間割の中には入れません。

・親和女子高、開講講座

- 高校1年「書道Ⅰ」 2単位 必修選択
高校2年「書道Ⅱ」 1単位 必修選択
高校3年「書道Ⅲ」 2単位 自由選択（一部必修選択）
高校3年「書道演習」 2単位 自由選択
高校3年「書道Ⅰ」 2単位 自由選択

3. 年間指導計画→資料1参照

4. 授業展開（中学の平常授業）→資料2参照

5. 心がけていること

- ・提出作品は当日中に評価。→導入時には前時の優れた作品を示す。廊下にも展示。
- ・中学時から摩墨の時間を設定。筆は羊毛。
- ・中学校の全生徒による校内書展を実施。

6. まとめとして

＜書の学習——鑑賞と技術——＞

上田桑鳩のことは「およそ芸術的な学習は、感覚を鋭敏に働かせ、物の受け取り方は、感じて受け取ることが必要です。その上で、自分の感じたことの理由がどういう理由であるかを、考えたり調べたりして解決するという理解が大切です」



7. 質疑応答

兵庫大会での発表後「授業展開（資料2）は盛りだくさんで、時間内に授業が進行するのか」という問いに対して、岸氏は「生徒はだんだんと慣れていくため、スムーズに進行していく」と回答していました。

・IV-2 「言語活動を重視した鑑賞教育の実践事例～リレー書道を通して学ぶ～」

1. はじめに

新学習指導要領において、「鑑賞の指導」に当たって『作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする』とある。つまり、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を通して鑑賞教育の一層の充実を図ることが目的としてある。今回、集団による鑑賞を目指す取り組みを行った。

2. 取り組み計画

「リレー書道」を扱った理由として、リレー書道は遊技としての側面が強いため、生徒が集まって少人数グループを作り、そのグループ内で積極的に議論が行われる役割を果たすと考えたからである。今回、「創作のための鑑賞」（単元としては「行書の学習」）として実施した。

1～10 時間：『蘭亭序』の鑑賞と臨書

11～14 時間：リレー書道（課題「初春」と「不言実行」）

15～16 時間：行書による創作（課題「初春」または「不言実行」）

<※「リレー書道」とは>

筆をバトンにみだてて、一人が一画書き入れ、その後に別の者が筆を受け取り、次の一画を書き入れ、また次の者へ…と順番に渡して、最終的に一文字作品を完成させる、というもの。深田氏によれば、「平成二十二年一月からNHKで放送されたドラマ『とめはねっ！』第一回放送でこのリレー書道を高校生同士が行うシーンが見られた」「発案者は不明であるが、テレビ番組で最初に行ったのは書家・武田双雲氏であると思う」とのこと。

3. 実践→資料3参照（50分、2連続授業）

- ①ワークシート配布後、「かご字」をとり、自分で気づいた点を記入する。
- ②その後、グループになって自分では気づかなかった点を記入する。
- ③リレーの順を決めて、開始→作品完成
- ④全作品を掲示して、批評を行う。
- ⑤自分一人で作品を書き、提出。

4. 成果と課題

生徒自身に「リレー書道を行うことで、『蘭亭序』の特徴を話し合い、鑑賞を深めることができましたか」というアンケートを行ったところ、好意的な回答が85%得られた。ここから、生徒同士が活発に古典に対して特徴をとらえて、鑑賞を深めていたことがうかがえる。

しかし、リレー書道は遊戯性が強いこともふまえておく必要がある。また、今回は「行書の学習」として扱ったが、むしろ楷書の単元時に扱うのがふさわしいという指

摘もあった。

5. 質疑応答

「行書は筆脈が重要な要素のひとつでもあり、今回のリレー書道の場合はその筆脈が途切れる可能性が多いと思われる」という指摘があり、この点に関しては深田氏も同意していた。また「言語活動」が活発に行われたことに注目し、題材を換えることによって今後応用・発展させることができるという意見もあった。

B. 全体会、情報交換会

文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官曰く「書を文化としてとらうる授業を」「伝統文化という側面を意識してもらいたい」「また“ペーパーレスの時代”と書道教育を両立させていくことも重要である」

各高等学校における「学校設定科目」の名称について（全国調査から）…名称から授業内容が把握しにくいものがある。

<参考：授業名称による分類とその一例>

・注！名称からの判断による

1. 専門科目「書道概論」に属する学校設定科目
…『書道概論』『書道研究』など
2. 専門科目「書道史」に関する学校設定科目
…『書道史』
3. 専門科目「漢字仮名交じりの書」に関する学校設定科目
…『漢字仮名交じりの書』『現代詩創作書道』など
4. 専門科目「漢字の書」に属する学校設定科目
…『漢字書法』『漢字制作』など
5. 専門科目「仮名の書」に属する学校設定科目
…『かな』『仮名創作』など
6. 専門科目「篆刻・刻字」に属する学校設定科目
…『中国の書と刻字』『彫る書』など
7. 専門科目「実用の書」に属する学校設定科目
…『書道一般』『日常的な書』『ライフアート』『くらしの書』など
8. 専門科目「応用の書」に属する学校設定科目
…『書道演習』『工芸書道』『実践書道』など
9. 専門科目「硬筆」に属する学校設定科目
…『ペン習字』『実用書ペン習字』など

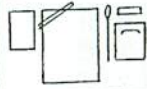
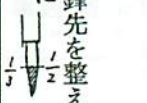
10. 専門科目「レターデザイン」に属する学校設定科目
…『レターデザイン』
11. 専門科目「文字環境表現」に属する学校設定科目
…『文字環境表現』
12. 専門科目「鑑賞研究」に属する学校設定科目
…『日本文化研究』『日本の書』
13. 専門科目「作品装丁」に属する学校設定科目
…『作品装丁B』
14. 芸術系の学校設定科目
…『生活芸術』『生涯芸術基礎』など
15. 総合学習系の学校設定科目
…『総合学習・書道芸術』『総合学習』
16. 課題研究系の学校設定科目
…『課題総合』
17. 目的と内容が不明確な学校設定科目
…『書道型』『エリア書道』など

中学「習字」の年間指導計画

中3 (1時間/週)			中2 (1時間/週)			中1 (1時間/週)			学年
3	2	1	3	2	1	3	2	1	学期
<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(基本と応用) <p>【校内書初展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書初め(自分の言葉や語句を画仙紙や色紙に書く) ・表紙・自次・案内状・熨斗袋の表書き(目的にふさわしい書体・書風・墨色) 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(基本と応用) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書(筆使い・字形・筆勢・つりあい)(楷書の古典の鑑賞と臨書) ・硬筆(基本と応用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 <p>【校内書初展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書と平仮名(調和・文字の配置) ・揭示物・プログラム・年賀状の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・習字の授業について(教室移動・用意する物・服装・書道室の備品・後片付けなど)(何を学ぶのか。内容とすすめ方・評価・心構え) ・用具・用材の使い方(硯・墨・筆・紙・その他) ・姿勢と執筆 ・楷書(基本点画・字形・配置・筆順) ・硬筆書写の基本(姿勢・持ち方・書き方) ・平仮名(楷書に調和した仮名・字形・運筆・大小・筆脈など)(いろは歌) ・漢字仮名交じりの書(楷書と平仮名の調和) ・硬筆(ペン習字帳) ・書初めの練習

学 習 内 容

〈中学〉平常の授業の展開（一時間）

順序項目	生徒の活動	教師（岸敏昭）の動きと言葉	時間 (分)
0	準備 ・教室移動・入室・着席 ・下敷を上げる ・上着を着る ・硯箱を出す ・墨を磨る	座席表を掲示（始業までに）（出席番号順） ・出席確認	2
1	磨墨 ・筆を用意する	・硯面全体を使ってゆったりと（せかせかと強くこすりつけない） ・濃いめに（ねっとり）とねばりが出てくるのが目安	10
2	筆 ・半紙・教科書を用意する ・ペン習字ノートにうずまき鉛筆（2B）で書く 	・根元まで墨を含ませて 柔らかくほぐす（大筆） ・硯の角を使って、余分の墨をとる。鋒先を整える。 ・鋒先が固まりやすいから、意識的に やわらかくする（小筆） 	1
3	硬筆 ・前時の作品を見る	・正しい姿勢と持ち方（腰を立てる・鉛筆を人差し指と平行に） ・ノートは右手の前に置いて書く ・はつきりと、丁寧に。何に気をつけて書くか。 【机間巡視】	5
4	鑑賞 ・本時の課題を見る ・音読する ・予想する ・指書きする ・試し書きする① ・教科書と見比べる（どこに気をつけたらよいか考える） ・試し書きする② ・教科書と見比べる ・隣の生徒と交換して見る（良いところ、気になるところを伝えて返す）	・前時の提出作を黒板に掲示する（十点前後） ・批評する（良いところ、気をつけているところなど） ・音読する、意味を確かめる ・半紙に何字入れるのか ・大きさ、あけ具合（字間）はどれくらいがいいか ・試してみよう（横の折り目はつけない。目分量で） ・（筆は）「親指伸ばして筆立てて」持つ 【机間巡視】 ・二〜三枚 前の黒板に試書を掲示する①（うまくいっているところ、いっていないところ） 【机間巡視】 ・二〜三枚 前の黒板に試書を掲示する②（どこが前より良くなっているか） ・示範書き（水黒板） ・堅くならないで、半紙全体を視野に入れて筆の弾力を使って ・吸取紙でよくふきとる ・名前が小さくなりすぎぬよう、太めに、大きめにはつきりと堂々と書く	2
5	表現 ・筆・硯を洗う ・黒板を消す（日番） ・硯箱を収納する ・いすを机の下に入れる ・筆を筆巻きにしまう ・下敷を巻く ・反故紙を分別処分 ・残りの墨の処置	・次時の予告 ・大筆は根元を指でもみなから洗う ・小筆はぞうきんか紙に水を数滴たらしめてふきとるだけでよい ・筆の鋒先を整えて筆巻きへ（筆巻きはしばらく風通しのよい所に）	20
6	片付け		5

文字	初	春	
筆順の初目、順次自注、 練習の前後の点線を入れる。	一行目十二文字目	一行目十文字目	
書体	初	春	
自分では書けなかった筆順は	・刀より爪のほうを下 が長くなる	・左は右に右は左に より長くする。	
	・細いところと太い ところをはききり させる。	・春の二画目から三画 目は右よりにする	
自分では書けなかった筆順は	・フなガリをもフ 入りをするびく	・日かくひれてる 横二本線かな	
	・全体的に右よがり り。	・めろりか。	
習字の題	班全員で初春という字を完成させるのびけ、二う難し かったです。全体のバランスを考えて書かなきゃいけないのも大変 でした。でも優勝できてよかったです。		

文字	初	春	
筆順の初目、順次自注、 練習の前後の点線を入れる。	一行目の十二文字目	一行目の十六文字目	
書体	初	春	
自分では書けなかった筆順は	・初めは右よ がりにする。	「日」は「夫」の「ハ」の 分にはいり込まない	
自分では書けなかった筆順は	左側の空のところが 三つある	は西田はとある。	
習字の題	リレー書道は初めてやりましたが、初めては本場所ではもう一人の先生に 自分からアドバイスをもらって書いてあげました。人から教わることがあります。 リレー書道を通して学びました。みんな頑張っていました。		

書道科・書道コース等設置の主な高等学校の専門科目

埼玉県立大宮光陵高等学校/書道科

漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・篆刻・書道概論・書道史・実用の書・応用の書・
硬筆・レターデザイン・文字環境表現・鑑賞研究・作品装丁・言語文化研究・日本文化研究

奈良県立桜井高等学校/普通科・書道コース

芸術科書道Ⅰ、書道Ⅱ・書道概論・漢字の書Ⅰ・仮名の書Ⅰ・漢字の書Ⅱ・仮名の書Ⅱ・実用の書・
篆刻・書

広島県立熊野高等学校/芸術類型・書道コース

芸術科書道Ⅰ・書道概論・漢字仮名交じりの書・仮名の書・実用書道・書道創作・書道集福

明誠学院高等学校(岡山県)/普通科・特別芸術コース・書道系

芸術科書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ・書道概論・漢字の書Ⅰ・漢字の書Ⅱ・実用の書・篆刻・書
応用の書

福岡県立八幡中央高等学校/普通科・芸術コース・書道専攻

漢字の書・仮名の書・篆刻・書道概論・応用表現・実用の書・漢字仮名交じりの書

三重県立四日市西郷高校/普通科・芸術コース

芸術科書道Ⅰ(2単位)、書道Ⅱ(4単位)、書道Ⅲ(6単位)

静岡県立沼津西高校/芸術科・書道専攻

芸術科書道Ⅰ・書道概論・実用の書・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・応用の書・書道史・
課題研究

埼玉県立伊奈学園高校/総合選択制・芸術系書道

芸術科書道Ⅰ・書道史・篆刻・書道Ⅰ・仮名の書Ⅰ・漢字の書Ⅰ(A)・漢字の書Ⅰ(B)・
漢字の書Ⅱ・漢字仮名交じりの書Ⅰ・漢字仮名交じりの書Ⅱ

沖縄県立小波高等学校/普通科・芸術教養コース

芸術科書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ・書道概論・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・課題研究
*各高校のホームページ等より

これら「全国書道高等学校協議会加盟校」では、音楽と美術に歩調を合わせた内容の専門科目の統一が進められ、概ね今大会で文部科学省に要望する13科目が設けられているようです。

そこで、昨年度の全高書道調査部の資料に基づき、学校設定科目の開講数をこの13科目を基準にして整理してみました。目標と内容につきましては単に名称から判断させていただきますので、間違いがある点はご了承ください。

平成21年度 学校設定科目の名称と講座数(全高書道調査部資料より)

1. 専門科目「書道概論」に属する学校設定科目と講座数

目標 書道の論理的学習を通して、芸術としての書道の意義を理解し、表現と鑑賞の基礎となる能力と態度を高める。

内容 文字と書 用具・用材 書論

書道概論	11	書道研究	8	書道探究	2	書道探究学	2
文字学	2	墨美探究	1	書道特講	1	書の探究	1
総合研究・書道	1	書道理論	1	文字概論	1		

2. 専門科目「書道史」に属する学校設定科目と講座数

目標 書道の歴史の学習を通して、書の文化的意義を理解し、伝統と文化を尊重する態度と書の文化を創造する能力を高める。

内容 中国書道史 日本書道史 その他の書道史

書道史	2						
-----	---	--	--	--	--	--	--

3. 専門科目「漢字仮名交じりの書」に属する学校設定科目と講座数

目標 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞の学習を通して、個性的・創造的な表現の能力を高める。

内容 用具・用材 漢字仮名交じりの書の表現様式 鑑賞

漢字仮名交じりの書	8	漢字仮名交じりの書法	4	漢字仮名交じり表現	1	現代詩創作書道	1
詩文と書	1	調和体	1				

4. 専門科目「漢字の書」に属する学校設定科目と講座数

目標 漢字の書の表現と鑑賞の学習を通して、個性的・創造的な表現の能力を高める。

内容 用具・用材 書体の変遷 漢字の書の表現様式

漢字の書	18	漢字書法	9	漢字	2	漢字創作	2
------	----	------	---	----	---	------	---

5. 専門科目「仮名の書」に属する学校設定科目と講座数

目標 仮名の書の表現と鑑賞の学習を通して、個性的・創造的な表現の能力を高める。

内容 用具・用材 仮名の成立 仮名の書の表現様式 鑑賞

仮名の書	18	仮名書法	10	仮名	2	かな	1
仮名創作	1						

6. 専門科目「篆刻・剣字」に属する学校設定科目と講座数

目標 篆刻・剣字の表現と鑑賞の学習を通して、個性的・創造的な表現の能力を高める。

内容 篆刻 剣字 鑑賞

篆刻・剣字	24	篆刻	18	歌美総合・篆刻	1	剣字	1
中国の書と篆刻	1	彫る書	1				

7. 専門科目「実用の書」に属する学校設定科目と講座数

目標 生活の中の書の知識や技術の学習を通して、目的や用途に即した書の表現様式を理解するとともに、書の伝統と文化を尊重し、創造的な表現と鑑賞の能力を高める。

内容 実用的な表現様式 鑑賞

実用の書	75	実用書道	146	総合書道	30	生活の書	18
生活の中の書	8	書道	6	書道形演習	5	書道一般	5
暮らしの書	4	生活書道	4	書に親しむ	4	教養書道	4
楽しい書道	3	実用書	3	書の世界	3	書道基礎探究	2
書法	2	芸術(書)と生活	2	暮らしの中の書	2	書	2
書道総合	2	書写検定	2	書写	2	書の道	1
書道文化	1	くらしで表現する書	1	一般書道	1	書道講座	1
書道基礎	1	書写演習	1	毛筆書写演習	1	専門書道	1
実用基礎書道	1	基礎書道	1	生涯書道	1	日常的な書	1
毛筆原書	1	くらしの書	1	書道教室	1	生活と書	1
選択書道	1	現代生活と書	1	生活教養	1	ライフアート	1
生活に生かす書	1	インテリア書の世界	1	生活の書道	1	応用生活書	1
書道ゼミ	1	趣味の書	1	暮らしと書	1	書写研究	1
書道を楽しむ	1	現代の実用書道	1	実務の書	1	実用書式	1
日常生活書	1						

8. 専門科目「応用の書」に属する学校設定科目と講座数

目的 文字を生かした書の知識や技術の学習を通して、目的や用途に即した書の表現様式を理解するとともに、書の伝統と文化を尊重し、創造的な表現と鑑賞の能力を高める。

内容 陶書 染書 その他の書の表現 鑑賞

応用の書	22	書道表現	29	書道演習	21	創作書道	18
書道創作	14	書道条幅	7	書表現	7	応用書道	6
書道芸術	5	書創作	3	創作	3	書法研究	3
実践書道	3	書法演習	3	書道応用探究	2	実技書道	2
書道制作	2	実技Ⅰ・Ⅱ	2	書道総合	2	書への道ステップⅠ	2
コマ・シヤルカグラフィ	2	書道作品制作	2	書法表現	2	臨書	2
現代書道	2	書道実習	1	美しい書を書こう	1	書芸	1
書道形演習	1	創造書道	1	ろうけつ染	1	書道Ⅲ課題研究	1
表現を楽しむ	1	書道クラフト	1	古典を学ぶ	1	創造表現	1
表現	1	選択書道	1	卒業制作	1	クラフトカリグラフィ	1
書造形	1	創作の技法	1	筆文字グラフィック	1	作品制作・臨書	1
作品制作・クラフト	1	工芸書道	1	書のアート	1	書道への誘い	1
筆文字	1	創作の書	1	芸術作品制作	1	総合芸術書道	1
文字デザイン	1	臨書の技法	1	書道大作実習	1	創作と実用書	1
書道発展	1	書道応用	1	書の美しさ	1	書を極める	1
書作品制作	1	応用表現	1				

9. 専門科目「硬筆」に属する学校設定科目と講座

目的 硬筆の学習を通して、文字を自ら選んで工夫して丁寧に書く態度を育てるとともに、書写能力を生活に役立てる態度を養う。

内容 用具・用材 漢字と仮名の調和 鑑賞

硬筆	20	ペン習字	37	硬筆習字	6	ペン字	4
硬筆書写	2	実用ペン字	2	実用書式ペン字	2	硬筆書道	1
硬筆・毛筆選択	1	実用ペン習字	1	硬筆・ペン字	1	硬筆書写検定	1
実用書ペン習字	1	硬筆書写演習	1	硬筆演習	1	ペン字入門	1
ペン字講座	1	実用書(硬筆)	1	硬筆を楽しむ	1		

10. 専門科目「レターデザイン」に属する学校設定科目と講座

目的 レターデザインの知識や技術の学習を通して、文字の性質や特性を把握し、多様な文字表現について理解するとともに、書の伝統と文化を尊重し、創造的な表現と鑑賞の能力を高める。

内容 文字の歴史 伝統的な文字の構造と様式 鑑賞

レターデザイン	1	手紙	1	絵手紙	1		
---------	---	----	---	-----	---	--	--

11. 専門科目「文字環境表現」に属する学校設定科目と講座

目的 生活の中において文字が果たす役割について理解を深め、書の伝統と文化を尊重し、環境を創造する上で文字及び書を総合的に生かす実践的な能力を育てる。

内容 表装表現 展示構成 鑑賞

文字環境表現	1						
--------	---	--	--	--	--	--	--

12. 専門科目「鑑賞研究」に属する学校設定科目と講座

目的 文化財や書作品、作家などについての鑑賞研究を通して、書に対する理解を深め、書の文化を尊重する態度を養い、批評する能力を育てる。

内容 書の文化史 作品・作家研究 文化財の保存・修復研究 評論

鑑賞研究	1	鑑賞	3	日本文化研究	1	言語文化研究	1
書の文化と伝統	1	日本の文化を求める	1	中国文化	1	文化と発表	1
鑑賞表現	1	書の文化と作品研究	1	日本文化演習	1	日本の書	1
中国の書	1	沖繩の書	1	水墨画	1		

13. 専門科目「作品装丁」に属する学校設定科目と講座

目的 作品装丁の知識や技術の学習を通して、紙や料紙の製法について理解するとともに、書の伝統と文化を尊重し、創造的な表現と鑑賞の能力を高める。

内容 紙の文化史 紙の製法 鑑賞

作品装丁B	2						
-------	---	--	--	--	--	--	--

□その他 芸術系の学校設定科目

総合芸術	15	生涯芸術基礎	1	芸術表現	6	専門芸術	1
芸術探究	5	芸術創造	1	応用芸術	2	芸術総合	1
伝統芸術	1	芸術発展	2	芸術演習	1	第2芸術Ⅰ	1
芸術力を磨こう	1	生活芸術	1	芸術鑑賞	1	芸術表現基礎	1
芸術全般	1	特別芸術	1				

□その他 総合学習系の学校設定科目

総学	4	総合的な学習の時間	4	総合学習	8	総合学習・書道芸術	1
総学(書創作)	1	総合	1				

□その他 課題研究系の学校設定科目

課題研究	12	課題総合	1	課題探求	3		
------	----	------	---	------	---	--	--

□その他 目的と内容が不明確な学校設定科目

富士山学	1	ToBeⅡ	1	地域Ⅱ	1	平面造形	1
Kプロジェクト書道	1	エリア書道	1	行動科スポーツマインド	1	書道型	1
卒業研究	1	ことば	1	総合楽しくアート	1		

研究協議会 I

発表者 黒川 なつき 先生（白山市立蝶屋小学校 教諭）
田中 学 先生（石川県立金沢中央高等学校 教諭）
司 会 濱田 美恵子 先生（金沢市立四十万小学校 教頭）
記 録 北野 京子 先生（津幡町立中条小学校 教諭）

書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～

① 第51回全日本書写書道教育研究会（愛知大会）参加報告

Q “基礎基本”と“生活に生かす”ことをつなぐことが大切。

「ありがとう」という気持ちや願いをこういう形で込められるという例はあったか。

A 6年生の例で、はじめに校長や担任が、子どもたちに向けて書いた色紙を見せたり、文字を選ぶとき、卒業の気持ちにふさわしい言葉を選ぶなど動機付けの工夫はあったが・・・

・「字の形を整えよう」ということと「心を込めよう」ということをどう繋ぐかがこれからの課題。

Q パソコンでの手本についてどう思うか。

3年生で、教材屋がパソコンで名前の手本を作ってくれる。光村教科書体というものを作って使っているらしいが、よく見ると筆で書いたものとは違う。

A 文字に暖かみがない。毛筆は大切だと改めて感じる。

② 第35回全日本高等学校書道教育研究会（神戸大会）参加報告

・リレー書道など、遊びごとを持ってきて、授業をすることが目立つ。

興味を持たせることは大切だが、教育の場でやってよいのか。

学習指導要領があるので、それをふまえた指導が大切。

一貫教育校の「しゅうじ」疑問。書写と書道を区別して指導していくべき。

小中の書写（国語科書写）は、文字を整えて書くことを求める。芸術的なものを入れる、美的なものをいたずらに求めると、ぼけてしまう。教育では、段階をはっきりさせるべきだ。段階をふまえず、芸術はあり得ない。

パソコンの文字に頼りすぎるのは疑問。（パソコンで文字を覚えるなど。）

国語科における毛筆書写のねらいを明確にすることが大切。

研究発表Ⅱ・研究協議会Ⅱ報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅱのまとめ

筆づかいの定着をめざす授業の工夫 ～自己解決のためのコンテンツ活用～

内灘町立清湖小学校 飯田 淳一

1. はじめに

3年生の4月から毛筆の学習が始まって約半年、ようやく用具の準備や後片付けもスムーズにできるようになり、手を真っ黒にしてしまう児童も少なくなってきた。本学級の児童は33人で、落ち着きがない児童が多いのだが、一生懸命書こうとする児童は多いと感じている。

4月から以下のことを心掛けて、書写の授業に取り組んできた。

- ①学習の流れをパターン化し、児童に見通しを持たせる。
→「試し書き－課題の把握－筆づかいを学習－練習－まとめ書き－ふり返し」
- ②練習前と練習後ののびがわかるようにする。
→試し書きとまとめ書きをふり返し用紙をつけて掲示
- ③書写コンテンツを活用し、児童にわかりやすいようにする。
→教室の50インチの大型ディスプレイで、筆づかい等を大きく提示
- ④授業時間内になるべく多く児童と一緒に筆を持ちながら書く。

これまでの指導の内容は表1の通りである。10月「ビル」の作品掲示（写真1）を改めて見てみると、この題材での学習内容（まがりとおれの筆づかいへの理解と技能）に対してはできるようになっている児童が多いが、これまで学習してできるようになったはずの始筆の筆の入れ方や左はらいなどが定着していない児童が見られた。

この後の単元では「にじ」を書き、ひらがなの筆づかいを学習する。漢字とかなの筆づかいの違いを考えさせるのだが、よりはっきりと違いを感じさせるためにも、これまで学習したことをもう一度復習することが必要であると考えた。

そこで、ひらがなの筆づかいの学習に入る前の漢字の筆づかいの中間まとめとして、児童のそれぞれが大切にしたい一文字を選んで書くという学習単元を設定した。

表1 これまでの学習内容

月	題材	主な学習内容
4月	二	用具の使い方、線遊び、横画の筆づかい
5月	十	縦画の筆づかい、終筆のいろいろ
6月	小	はねの筆づかい、左はらい・点の筆づかい
7月	大	左はらい・右はらいの筆づかいと違い
9月	月	おれ・はねの筆づかい
10月	ビル	おれ・まがりの筆づかいと違い



写真1 10月の作品掲示

10月の作品「ビル」から、概ねよしと評価できる人数（33人中）

ビの2画目の縦画の始筆・・・18人

ビの2画目のまがり・・・23人

ルの1画目の左はらい・・・25人

ルの2画目のおれ・・・25人

みんなで同じ字を書くというこれまでの学習とは違って、児童が自分自身で考え決定していく場面は増える。その場面を次の3つと考えた。

- ①自分が大切にしたい字を選ぶ場面
- ②自分の手本を作る場面。
- ③自分の必要に応じて、筆づかいを確認して書く場面

この実践を通して、きれいな字を書こうとするときに、児童がどのように書けばいいのかを考え、これまでの学習や必要な情報を活用して解決していく力もつけることができるのではないかと考えた。その解決のためにコンテンツは役立つのかを探ることにした。

2. 目的と方法

筆づかいの定着を図るために、自分で書きたい字を選び、これまでの学習や書写コンテンツを活用して書く学習を行う時に、コンテンツは効果的かを明らかにする。

検証方法は、児童の作品の変化と学習後のアンケートから行う。

作品については、筆づかいの定着が「もう少し」のY児・M児・K児・T児を中心にみる。アンケートでは、意欲的に取り組めたか（楽しかったか）、わかりやすかったかを、①字を選ぶ、②手本を作る、③コンテンツを使うの3つの場面を中心に問うことにする。なお書写コンテンツは当連盟作成の「書く蔵くん」(<http://ishikawa-hokyoren.net/>)の「基本の点画」の部分を用いる。

3. 実践

(1) 自分が大切にしたい字を選ぶ

これまで習った漢字の中で、大切にしたい漢字1文字を自分で選ばせた。国語の教科書の巻末の付録を使い、表2のようにそれぞれの思いで選ぶことができた。選んだ理由に児童の個性が表れている。国語科で物語教材「モチモチの木」に取り組んでい

表2 児童が選んだ字と選んだ理由

選んだ字	この字を選んだ理由	
生	生まれなきゃ自分はいないから	(Y児)
生	生きるというのは大切だから	(S児)
生	みんな幸せに生きれたらいいなと思って	
命	命は大切だから	
命	命がないと何もできないから	
動	力を合わせてがんばって動いて仕事するみたいだから	
絵	自分の字で「絵」はあまりうまくないから	
思	人を思う気持ちがとても大切だから	
勝	野球の試合で勝ちたいから	
金	りかさんが金にすればとあったから	
神	神様がいなかったら人間はいないから	
感	感じるということは大事だから	
感	感じるは心で感じるってことだから大切にしたいなあと思ったから	
感	感じる心になりたいから	
心	心は大事だから	
心	心を大切にしたいから	
心	心がなきゃいいことできないから	
幸	もっと幸せになりたいから	
幸	これからもずっと幸せであるように	
幸	ぼくはみんなに幸せになってほしいから	
力	おれは力はまあまあ強いから	(M児)
友	友達は大変だから	
原	自分の字だから	
美	花とかがいつまでも美しいままでいてほしいから	(K児)
美	元から美しいという字が好きだったから	
美	花が枯れずに美しくキラキラした花になってほしいから	
平	いつまでも平和な家族でいたいから	
世	世界の世を大事にしてきれいに書きたいから	(T児)
世	世界の世だから	
楽	毎日楽しく過ごしたいから	
楽	楽しく遊びたいから	
楽	自分の好きな漢字だから	
楽	毎日楽しく過ごしたいから	

(2) 自分の手本を作る

書写の教科書の巻末に付いている毛筆の書体を手本にすることにした。しかし大きさが約1cmしかなくこれから手本を作るのは難しい。それでパソコンに取り込み、画面上で拡大表示してワークシートに写すことにした。(写真2)

かご書きをさせたが、初めての作業であったので戸惑った児童も多かったようだ。

画の重なり部分の部分がわからず、なかなか書けない児童も多かったので、一画ずつ、始筆に注意させ、筆の形を書き込ませた。

(写真3)

この作業は思っていたよりも時間がかかり、まるまる1時間を使った。また1・2年生で習う漢字は巻末の付録も硬筆用のお手本であったので、線が細くなってしまっている。

(3) 自分の必要に応じて、筆づかいを確認して書く。

一人一人の手本が完成した後、画ごとの筆づかいの数を数え、試し書きを行った。

その後、必要に応じて自分でコンテンツを開き見てもよいことを告げるとほとんどの児童がパソコン室へ移動し、筆づかいのチェックを行っていた。そして練習に取り組み、1枚提出。提出されたものには教師の赤鉛筆でチェックを入れて返した。

次時のまとめ書きの時間にも確認タイムを設けると33人中28人がパソコン室へ行って確認してから、練習と清書に取り組んだ。パソコン室で



写真2 かご書きで紙に写す

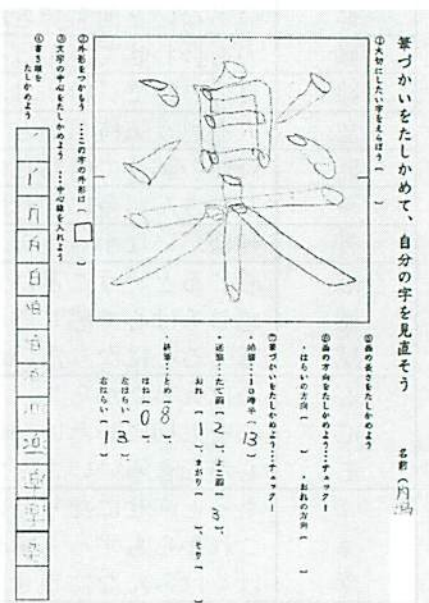


写真3 作成したお手本

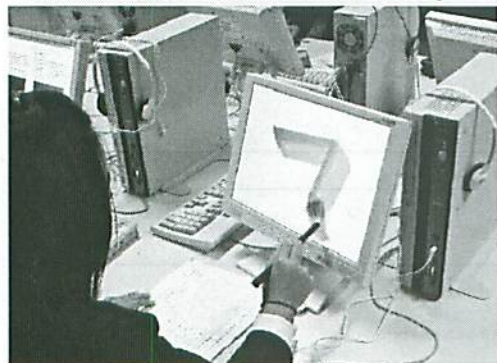


写真4 コンテンツで筆づかいを確認

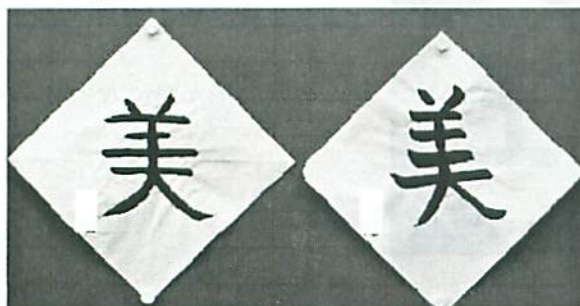
見ている時間は、5分から長い児童で10分程度だった。

書きたい字に必要な筆づかいを自分で選び、納得がいくまで何回も見ている姿、墨をつけていない筆でコンテンツと一緒に画面をなぞって、真似ている姿が見られた。(写真4)

教室へ戻ってからまた確認したくなった児童は、教室の大型ディスプレイで確認させた。

4. 結果

(1) 作品による筆づかいの変化 (左: 試し書き、中: 練習、右: まとめ書き)



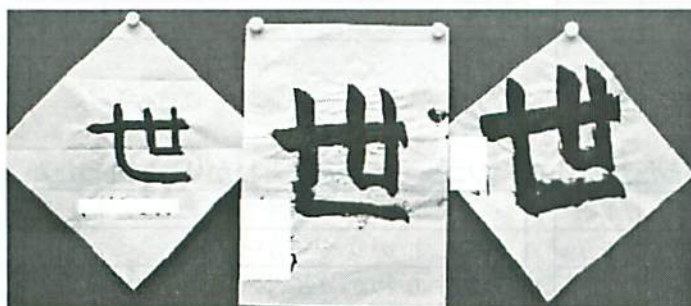
作品例1 10時半の始筆を意識した例

K児の作品
横画、左はらいの始筆を意識した例
7画目の横画の長さも長くなっている。



作品例2 10時半の始筆を意識した例

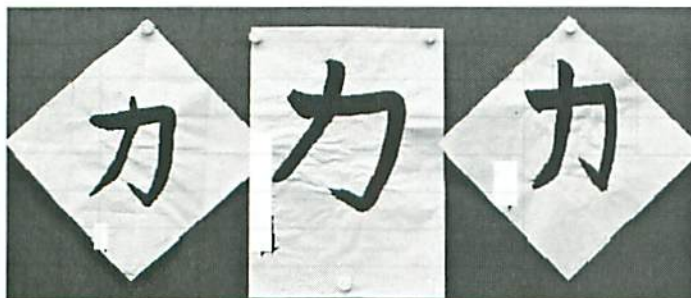
Y児の作品
横画、縦画の始筆を意識した例
穂先が斜めなので太く大きく書けている。



作品例3 縦画、おれを意識した例

T児の作品
縦画の始筆、5画目のおれを意識した例

太く大きく書けるようになっている。

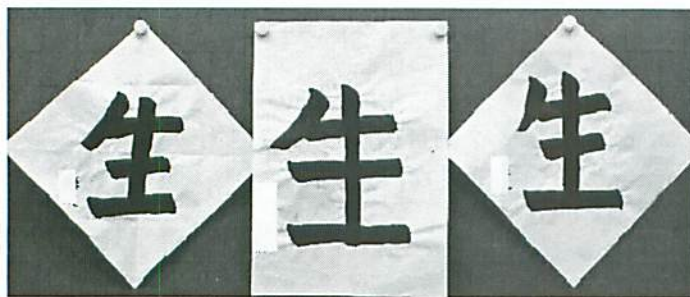


作品例4 少しずつ自信を持ち始めたM児の作品

M児の作品
始筆の10時半が意識されている例

きれいに書こうという意識が出てきた。





S児の作品
教師と一緒に筆を持って練習した例
左はらいの形が良くなっている。

作品例5 一緒に筆を持って練習したS児の作品

(2) アンケートによる児童の意識 (表3 学習後のアンケート結果)

①自分で字を選ぶのは、楽しかったか。

・とても楽しかった	1 1
・少し楽しかった	1 5
・あまり楽しくなかった	4
・ぜんぜん楽しくなかった	3

②お手本を自分で作るのは、楽しかったか。

・とても楽しかった	1 3
・少し楽しかった	1 4
・あまり楽しくなかった	5
・ぜんぜん楽しくなかった	1

③お手本を自分で作るのは、難しかったか。

・とてもむずかしかった	9
・少しむずかしかった	1 5
・あまりむずかしくなかった	5
・ぜんぜんむずかしくなかった	4

④筆づかいをパソコンで確かめたか。

・たしかめた	3 2
・たしかめなかった	1

⑤パソコンで確かめるのは楽しかったか。

・とても楽しかった	1 3
・少し楽しかった	1 7
・あまり楽しくなかった	1
・ぜんぜん楽しくなかった	1

⑥パソコンで確かめるとわかりやすかったか。

・とてもわかりやすかった	1 8
・少しわかりやすかった	1 0
・あまりわかりやすくなかった	2
・ぜんぜんわかりやすくなかった	2

⑦うまく書けたか。

・◎ とても	9
・○ まあまあ	2 2
・△ あまり	2

⑧前よりうまくなったところはどこか。

・始筆の十時半	1 9
・横画	1 2
・たて画	1 3
・とめ	1 9
・はね	8
・点	7
・おれ	7
・まがり	4
・左はらい	1 5
・右はらい	7

表4 児童の感想

生	始筆の十時半がうまくなった。	(Y児)
生	意外ときれいに書けてよかった。左はらいを先生に教えてもらい、よかった	(S児)
生	十時半がとても難しかったです。	
命	初めはあまりよくなくてうまく書けなかったけど自分で調べてうまくなって	
命	とてもうれしかったです。	
命	少しうまくなってうれしかったよ。	
動	この字を書くのは難しかった。	
絵	最初はへたくそだったけど練習してきてちよつとうまく書けてうれしかったです。	
思	心のこもってない字からだんだん心のこもった字になってきてうれしかったです。	
勝	うまく書けました。よかったです。	
金	前よりうまく書けてよかったです。	
神	ちよつとよくなってよかった。	
感	前より一番よく書けたのは、はねです。少し難しかったです。	
感	最初より上手になったと思います。一番上手に書けたと思ったのは「口」の	
感	ところでは、はねです。	
感	最初より上手にできました。	
心	前よりもうまくできました。	
心	そりの部分が難しかったけどうまく書けました。	
心	最初よりうまく書けてうれしかった。	
幸	最初は全然下手だったけど最後うまく書けました。左はらいが難しかったです。	
幸	前よりもとつともうまくできていて、外形と中心がうまくなりました。	
幸	最初は下手だったけど最後はうまく書けてよかったです。	
力	力を書いたら十時半やはね、おれ、左はらいがうまくなった。	(M児)
友	おれがとても難しかったです。	
原	あまり上手に書けませんでした。	
美	最初は横画の十時半がうまくできなかつたけどだんだん上手になれてうれし	(K児)
美	かったです。	
美	7画目の横画が最初よりうまく書けたからよかったです。	
美	一番最初の美よりもきれいにできたのがうれしかったです。	
平	一番初めよりもだんだんうまくなってうれしかった。	
世	世のおれが難しかったよ。	(T児)
世	とつとも難しかったです。特におれが難しかった。	
楽	最初は十時半や右はらいがあんまり上手じゃなかつたけどうまくなってよか	
楽	かったです。	
楽	横画がだんだん上手になりました。	
楽	難しかったところをできるようになりたいです。	
楽	最初9画目をはらっていたけど、最後にはとめと気づいてよかったです。	

5. 考察とまとめ

(1) 自分が大切にしたい字を選ぶことについて

表3の①の「字を選ぶことが楽しかったか」の問いに対して、33人中26人(約8割)の児童が「とても楽しかった・少し楽しかった」を選んでおり、自分の書きたい字を考え、選ぶことはよかったと考える。

表2に見られるように、選んだ理由の中に児童の思いがよく表れている。その児童らしさも改めて伝わってきて、担任としてとてもうれしく感じた。

また、各児童がこうありたいと願うことや大切にしたいことを思いながら字を書くこともできたのではないだろうか。表4の「思」を書いた児童の感想に「心のこもってない字からだんだん心のこもった字になってきてうれしかった」とあるように、字の変化とともに、書くときの気持ちも変化していることが感じられる。

(2) 自分の手本を作ることについて

かご書きをして手本を作るという作業については、表3の②のように「楽しかった」と感じている児童も多いのだが、表3の③「とても難しかった・少し難しかった」と感じる児童が予想していた以上に多かった。これまでかご書きの練習用紙は使ったことがなかったので、かご書き自体が初めてであったこともあるが、画が重なっている部分の始筆をとらえられていない児童が意外に多いことがわかった。しかし、始筆の筆の形を書き入れさせたことで、10時半の角度をより意識させることができたことはよかった。作品例1に見られるように、始筆の筆づかいについては全児童が意識して書けていた。

書き出す段階で中心がずれていたり、へんとつくりがずれたまま写したりしている児童も見られたので、教師の手立てがもっと必要であることがわかった。

(3) 自分の必要に応じて、筆づかいを確認して書くことについて

ほとんどの児童がコンテンツを使い、筆づかいを確認した。表3の⑤と表3の⑥に見られるように、「楽しかった」(32人中30人)、「わかりやすかった」(32人中28人)と感じている児童がほとんどであったので、コンテンツを児童が活用することは意欲の面、理解の面でも効果があったといえる。これまで教師がパソコンを操作して見せていたのだが、自分で見たいところを選んで何回も見たり、画面を筆でなぞって練習をしたりして、コンテンツに能動的に関わると、より意欲が高まり理解が深まることがわかった。

作品例2や作品例3のように試し書きとまとめ書きを比べてみると線が太くなっている児童がとても増えている。Y児やT児はこれまで穂先が水平方向や垂直方向を向いていたため、線がどうしても細くなっていたのだが、コンテンツを用いたことで穂先を斜めにしたまま筆を運ぶことができた。運筆の様子をすぐ目の前で確認しながら手を動かすことで納得ができたと思われる。教室の前面の離れたところの画面を見るよりも、近くのパソコン画面の方がやはり確認しやすいということだろう。

作品例4は、これまで字に対して興味をあまりもたずきれいに書こうという意識がふだんからほとんど感じられなかったM児が、コンテンツを使うことで書き方がわかり、きれいに書こうと意識し始めた例である。表4の感想にも「力を書いたら十時半やはね、おれ、左はらいがうまくなった。」とあるように自分の字の変化に気づいて

いる様子がわかる。

作品例5のS児は、コンテンツに対して「全然わかりやすくなかった」を選んだ。しかし感想では「意外ときれいに書けてよかった。左はらいを先生に教えてもらい、よかった」と書いている。練習の時にS児は「左はらいがうまくできない」と言ったので、一緒に筆をもって書き、手首をうまく使うことを練習した。その結果左はらいをうまく書けたと感じたのであろう。

どれだけコンテンツが効果的であると言っても、視覚のイメージだけではわからないことは多くある。手を動かす運動のイメージを教師が示してやることは絶対に必要であると改めて感じた。

以上のように、児童が必要に応じて自らコンテンツを活用することは、筆づかいを定着させるために役に立つと言える。しかしコンテンツで足りない部分を補ったり、目的をもたせて使う場面を設定したりすることは、教師が行っていかねばならない。

6. 今後に向けて

今回の実践で、問題点もいくつか感じた。

- ・教室とパソコン室との往復が煩わしいこと
- ・1・2年の漢字の毛筆の手本を用意すべきであったこと
- ・教師の言葉によるチェックをもっと充実させればよかったこと
- ・ワークシートの改善を図ること（写し書きしたものを貼る、中心を意識させる等）
- ・用紙を工夫すること

などである。また、この単元を入れたことで、他の単元の時数を年間の計画案から、少しずつ削ることも必要である。

今回の実践をふまえ、改善を図りながら、今後を活かしていきたい。

研究協議会Ⅱ（小学校）

授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～ 「筆づかいの定着をめざす授業の工夫～自己解決のためのコンテンツ活用～」

発表者 飯田 淳一 先生 （内灘町立清湖小学校 教諭）
助言者 新村 裕二 指導主事（金沢教育事務所）
司 会 不破 恵美子 先生 （白山市立旭丘小学校 教頭）
記 録 四谷 晶子 先生 （白山市立松陽小学校 教諭）

◇発表者より

- ・3年生の書写は、基礎基本を学ぶ大切な学習である。今回の実践は、毛筆の基礎基本を確かめるものであった。
- ・この実践は、全国大会の報告の中のパソコンでの手本作りのと似ていた。パソコンの活用で、基礎基本の確認に役だった。
- ・毛筆で学んでいる基礎基本を、日常生活の中でなかなか生かせないのが現状である。活用と基礎基本の両方を学習していかなければならない。

◇質疑応答より

- ・コンテンツを使って始筆のところに気をつけて書いていたが、実際に書く場合とパソコンの画面になぞる場合とはちがう。そこから子どもたちに混乱を招くのではないか。書く速さは参考にはなると思うが・・・。
- ・筆の持ち方、横画の書き方など、パソコンの画面より、教師が手を沿えて書かせた方が身に付くと思う。
- ・横線は右上がりになっているから、左よりも右を重く書くようにする。その基本を毛筆によって教えるといい。これは、硬筆の字を書けるようにするための基本である。
- ・パソコンによる活字の手本は、毛筆の見本にはならない。活字と毛筆にはちがいがある。
- ・パソコンを使いこなすには難しいと思っていたが、コンテンツはとても参考になった。子どもたちにとって、達成感もあったように感じた。
- ・今回の実践では、子どもたちが自分で文字を選んだが、とても難しい字を選んだ子もいたようなので、お手本作りではとても苦労したのではと思う。しかし、難しい字を選んだ子は大変そうだったけど、好きな字を書くことは子どもたちの意欲につながってよかった。
- ・例えば、美術の教師は生徒全員に美術を嫌いにはなあってほしくないと思っている。そして、人間の造り出したものに関心を持ってほしいと思っている。書写でも同じことが言える。自分の気に入った字を書きたいという気持ちが大切である。
- ・コンテンツのモニターからどのような始筆、運筆があるのか分析させることはよい。書の線の形、始筆、運筆があつて形が出来る。筆の持ち方、垂直の面、構え全てが字となって現れる。しかし、全ての子が同じだとつまらない。それぞれの違いがあるからおもしろい。

◇助言者より

- ・好きな字を選ばせる取り組みは、子どもたちが意欲的に取り組める良い活動だった。
- ・子どもたちにとってのわかりやすさを意識させた活動だった。50インチのディスプレイで拡大して示すこと、子どもたちが次にする活動を自覚することが出来るということ、筆づかいの点画を意識させることが出来るということ、がとてもわかりやすかった。
- ・始筆の10時半、書写用語を子どもたちが自覚していること、手を持って指導していることなど、基礎基本をしっかり指導していた。
- ・字を選ばせるときに、すべてフリーで選ばせるのは、自分の苦手なところが入ってない字を選ぶ可能性がある。苦手な字のリストから選ばせるとよかったのではないか。
- ・教科書を生かした指導をあたりまえのようにして欲しい。そのとき、アイテムを教室に掲示しておき、意識させると良い。
- ・毛筆と硬筆の指導を関連させるために、1時間の中で最後に硬筆で振り返るようにさせるとよい。

仮名の書の指導法

～高野切第三種の臨書に至るまで～

石川県立金沢北陵高等学校 講師 東 智子

1. はじめに

10月26日の平成22年度書道部会で、平成25年から実施される新学習指導要領の説明があり、改訂のキーワードとして「伝統と文化の尊重」が掲げられた。

仮名の分野での改訂では下記の項目が注目される。

書道Ⅰ A 表現①「漢字仮名交じりの書」「仮名の書」「漢字の書」の三分野が必修

B 鑑賞①「漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること」を追加
本校では、いずれも必要と考え、年間指導計画の中に取り入れているが、学校行事等で授業時間が計画通りに進めない中、いかにして内容を充実させていくかが課題である。

2. 本校の現状

単位制総合学科であり、1年生は芸術科目必須2単位。2、3年は選択科目として2単位。1年～3年と継続している生徒は数人であるため、2、3年生は個々に応じて指導している。進学は推薦希望者が多い。また、就職希望もいるので、資格取得のため書写検定を授業の中に取り入れている。1年生は硬筆3級全員合格を目標とし、2、3年生は各々の希望する級を目標として、硬筆・毛筆の指導に当たっている。

3. 仮名の指導にあたって

ここ数年、ひらがなの筆順の間違いが目につく（よ、ら、な、も、や、せなど）。又、中学校での書写の時間が極めて少なく、ひらがなやカタカナの字源が漢字であることを知らない生徒や、行書を書いたことがない生徒が多い。

高校に入って初めて見る平安時代の古筆は雅の世界であり、いつもノートに書いているひらがなの文字とは掛け離れている。初心者の手本として教科書に載っている高野切第三種にしても「日本語？」という難しい分野である。

本校ではこの“仮名”を身近に感じさせ、美しさを表現できるようにと硬筆プリントを併用し、ビデオ鑑賞も加えて指導している。以下、授業内容と指導ポイントを記述して紹介する。

時限	授 業 内 容	指 導 ポ イ ン ト
1	「仮名の書の世界へ」 4月に学んだ書体の変遷を見直してから仮名を説明し、仮名の字源が漢字であることを確認させる。 ※ 資料①	ノートに教科書の内容をまとめさせ、わかったこと、感想を記入させる。
2	ひらがな、カタカナの字源を確認させながら硬筆プリントを書かせる。筆順の指導もする。※ 資料②	普段書いている自分の文字との違いに気付かせる。
3	小筆を使って実際に書いてみる。 基本用筆で慣れた後、単体平仮名を書く。	筆のおろし具合、持ち方、墨の含ませ方に注意させる。
4	変体仮名について説明した後、硬筆プリントで書いてみる。 ※ 資料③	変体仮名の種類の多さに気付かせる。
5	NHK “その時歴史は動いた” NO271 「ひらがな革命」を見せる。 菅原道真・藤原時平について 古今和歌集の成立について 国風文化の成立などを学び、仮名を身近なもの実感させる ※ 資料④	ノートに内容をまとめさせる。 ・ わかったこと ・ 感想 を記入させる。
6	・ 教科書を使って「連綿」「古今和歌集」「卷子・軸」「高野切」の説明 ・ プリントを使って、高野切第三種を硬筆でなぞり、変体仮名を書き加え理解させる。読み方、歌の意味も記入させる。 ※ 資料⑤	変体仮名の部分を色を変えて分かりやすくさせる。 ノートに高野切三種、一種についてまとめさせ、わかったこと感想を記入させる。
7	高野切第一種も同様に記入させる。 難しい連綿部分、変体仮名を明らかにする。	筆の持ち方、墨の含ませ方、中心線に注意させる。
8	小筆臨書（高野切第三種）	仮名を勉強しての感想をノートに記入させる。
9	・ 教科書の拡大図版で連綿の練習 ・ 一首を選んで半紙に何度も練習する。 ・ 添削をして線に慣れてきたら墨の濃淡にも注目させ、表現できるように指導する。 ・ 清書提出 名前も調和させる。	

各自がノートに学習した内容、分かったこと、感想を記入させている。ノートのまとめ方は自由であるが、毛筆が苦手な生徒もいるので、採点して評価につなげている。これは新学習指導要領の改訂のキーワードである「言語活動の充実」に結びつくと考える。

4. 現状について

第2回目の書写検定受検にあたり、練習時間確保のため、8、9時限目の臨書に至っていない。しかし、硬筆の指導に入って下記に気づいた。

- ・ 今まで“まる字”を書いていた生徒にひらがなの字源を説明して偏と旁の構成を説明すると形が整って中心が取れる。
- ・ 筆順の間違っていた生徒にも字源から教えると納得する。
- ・ 連綿の意連を意識させると、縦書きが美しく書け、上達の実感が味わえたようだ。
- ・ 硬筆の持ち方が誤っている生徒が多いが、連綿に慣れると正しい持ち方が書きやすいと直す生徒もいた。

5. 今後の課題

新指導要領 書Ⅱの中で「仮名の書」の「散らし書き」はⅠに移ったとの項目があった。臨書まで進んだ後、古筆を鑑賞して散らし書きに挑戦させ、作品の創作まで展開していきたい。

6. 終わりに

前田家加賀百万石という伝統と文化を重んじる地域に暮らし、恵まれた環境で生活していることをもっと認識して興味を持たせたいと思う。

授業中、机間指導をしていると「先生、この字きれいに書けたでしょ」と得意そうな笑顔を見せる生徒が増えてきたことが嬉しい。

“美しく書けた”という指先の感覚をつかむと、上達が早く、自信につながる。書道を学んでいることが社会に出た後役に立ってくれればいいと願いつつ、今後も指導に当たっていきたい。

資料① 平仮名の原字からの推移（採用した教科書は不明です）

- ② 修文館出版 ペン習字の基本 P 32～33
- ③ 書道教育社 ペン字テキスト応用編 P 34～35
- ④ 「ひらがな革命」
- ⑤ 教育図書 教Ⅰ 高野切第三種 P 70

研究協議会Ⅱ（高等学校）

授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～ 「仮名の書の指導法 ～高野切第三種の臨書に至るまで～」

発表者	東 智子	先生	(石川県立金沢北陵高等学校 講師)
助言者	中川 素子	主任指導主事	(石川県教育委員会学校指導課)
司 会	水上 真由美	先生	(石川県立金沢商業高等学校 教諭)
記 録	出村 礼子	先生	(尾山台高等学校 講師)

◇発表者より

- ・平成 22 年度書道部会で、平成 25 年から実施される新学習指導要領の説明が行われた。
- ・改訂のキーワードとして「伝統と文化の尊重」が掲げられた。
書道士 A 表現①「漢字仮名交じりの書」「仮名の書」「漢字の書」の分野が必修
B 鑑賞①「漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること」を追加
- ・本校ではいずれも必要と考え、年間指導計画に取り入れているが、いかにして内容を充実させていくかが、今後の課題
- ・本校の現状
単位制総合学科であり、一年生は芸術科目必須 2 単位。二、三年生は選択科目として 2 単位。
- ・資格習得のため、書道検定（文部科学省後援）を授業を取り入れ、一年生は硬筆 3 級合格を目標とし、二、三年生は各自希望の級を目標とし、指導に当たっている。
- ・前田家加賀百万石という伝統と文化を重んじる地域に暮らし、恵まれた環境で生活していることをもっと認識して、興味を持たせたい。
- ・まる字を書いている生徒、硬筆の持ち方が誤っている生徒、筆順の間違っている生徒が多い中で、ひらがなの字源を説明し、正しい持ち方を指導すると、上達も早く自信につながる。
- ・書道を学んでいることが社会に出た後役に立ってくれればといいと願いつつ、指導に当たっていききたい。

◇質疑応答より

- ・六世紀に入り、漢字の使用が広がり、漢字の音を借りた日本語の表記が工夫され、万葉仮名が登場。
- ・和歌の表記には一字一音が適しており、特に「万葉集」に用いられた。
- ・平安時代中期になると中国の影響が弱まって日本独自の文化が開花し、草仮名をさらに簡略化した平仮名へと発展。

- ・現在使用している平仮名は明治 33 年、それまで何種類も用いられた同音の文字から一字一音に整理された。
- ・これ以外の仮名は変体仮名と呼ばれるようになった。
- ・「漢字仮名交じりの書」を指導する上で、漢字、仮名の古典を学習し伝統的な書法をふまえて、現代の人が読むことができる作品を作ることが重要である。

◇助言者より

- ・新学習指導要領・改訂のキーワードとなっている「伝統文化の尊重」、「言語活動の充実」が、まさに東先生も授業の中心に含まれており実践されていた。
- ・仮名の歴史をふまえた歴史的・文化的視点に立った指導をされている。
- ・素材として、自分の中から言葉を紡ぎ出し、文字を表現する楽しみを見出すことは、他の芸術科、音楽、美術とは違う部分として、線のつながりを追うだけでなく和歌の内容を理解することなど、国語科と連携してさらに発展させてほしい。
- ・ノート指導（資料 P7、P8） 板書を写すだけでなく、テレビ番組「ひらがな革命」を観て、内容を自分の力でまとめさせることにより、「言語活動の充実」に結びついている。
- ・美術館で前田育徳会所蔵品を鑑賞できることや、日本文化、文学文化の視点にまで広げ、料紙や用具の美にふれることも楽しみであり、鑑賞の場面でも知的理解につながっている。
- ・新学習指導要領に移行する準備期間として、生涯学習を見据えた上で少ない時間の中での指導の工夫、計画性、どこに比重をかけるか、資格取得など学校と生徒の実態に応じてさらに充実した指導をしてほしい。

大会に参加して

第21回石川県書写書道教育研究大会に参加して

坂井市立東十郷小学校 教諭 齋藤 雅実

この度は、第21回石川県書写書道教育研究大会に参加させていただきました。本大会では、全国大会に参加されての報告と実践発表があり、どれも大変興味惹かれる発表で、これからの書写書道教育に大切な内容でした。そこで、拝聴したことを振り返りまとめてみたいと思います。

一つ目は、基礎・基本の大切さを再確認できたことです。習得と活用が重視されている中、毛筆を使っての指導の意義と方向性を再確認することができました。現在、児童が活用している姿はどうあるべきか関心が高まってきているので、その姿を授業に求めていくことは当然のことですが、基礎・基本の指導と習得があってこそ活用に結びつき、そして、活用の中で基礎・基本が生きてくるのだらうと思いました。

二つ目は、パソコンの活用です。教室に大型テレビやパソコンといった視聴覚機器が整備されてきている現在、これらの機器を使って児童の学習意欲や関心を高め、学習内容の理解と定着を図ることは、もはや特別なことではないことだらうと思います。機器の活用によって、「やってみたい。書いてみたい。」と学習意欲を喚起し、そして、「わかった。楽しい。」と学びが続いていくようにしていかなければと思います。発表では、わかりやすくまとめられたデジタルコンテンツを一斉指導や個々の課題解決に使用されていて、大変参考になりました。また、実際に手をもつての指導の大切さも述べられていて、これからの教師は、デジタル面とアナログ面での指導を、場面に応じてコーディネートしていく力が求められていくと改めて思いました。

三つ目は、石川県書写書道教育連盟の組織のすばらしさであります。小・中・高の先生方が共に力を合わせて、このような県レベルの大会が毎年開催されていることは大変すばらしいと思います。

これからも本研究大会が益々実りあるものとなって、回を重ねていくことを願っております。ありがとうございました。

第21回 石川県書写書道教育研究大会に参加して

日本航空高等学校石川 教諭 池崎 美枝子

今回の大会テーマである「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」に則り、4名の先生方が研究発表をされました。どの先生も情熱を持って児童生徒の指導にあたり、共に書と対峙する真摯な姿勢を拝見し、自分自身の勉強不足を痛感し、大きな刺激をいただきました。

大会に先立ってご挨拶された宮下孝晴会長は、イタリア美術にも精通しておいでになり、グローバルな視点から書道を見ることのできる稀有な先生です。今後機会があれば、お話をおうかがいしたいと思います。

全日本書写書道教育研究会愛知大会参加の報告発表をされた黒川なつき先生、「筆づかいの定着をめざす授業の工夫」と題して実践報告をされた飯田淳一先生のお話から、パソコンという日進月歩の道具と古来よりの道具である筆とのコラボレーションを模索しつつ、よりよい書写教育のあり方を考察されていると感じました。パソコンのソフトも活用しながら、実際に筆を持つことによって体感する墨の匂い、紙の上を走る毛先の感触は、パソコンのバーチャルな画面だけでは体験できないものです。しかし、その初期段階、もしくは確認事項として、パソコンを効率よく利用するということは、児童に書写への興味関心を喚起するためにも有効な手段になってくると感じています。

全日本高等学校書道教育研究会兵庫大会に参加された田中学先生、「仮名の書の指導法」として東智子先生、お二人の発表内容は高等学校教育の現場における芸術教科のあり方について、大いに参考となるものでした。田中先生による兵庫大会の報告は「生きる力を拓く書道教育」ということで、パソコンの普及とペーパーレスの時代といった要因を抱えながら、書道のあり方を考えていかねばならないという課題が明確に打ち出されて勉強になりました。また、「蘭亭序」のご指導に当たっては、授業の工夫が随所に見られ、中国の古典の素晴らしさを現代の高校生に伝えるために「リレー書道」を行うなど、学びの楽しさを生徒達は実感できていることでしょう。

東智子先生の書道に対しても生徒に対しても真摯な姿勢は心打つものがあり、個人的には、仮名の指導を苦手としているので、今後の授業の参考にさせていただきたいと思いました。

以上のように、小中高等学校の現場における書写書道教育の実践には、課題は多くありますが、教師一人一人が児童生徒に対する熱心な教育の心を失わず、書道に真摯に取り組む姿勢を保ち、意見や情報交換をしながら切磋琢磨していく必要があるのだろうとしみじみと感じています。

発表者の先生方、お疲れ様でした。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 (昭和62年)	有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。 (1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)
1988. 4. 22 (昭和63年)	石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ。[金沢大学教育学部書道演習室] (1995. 10. 5迄に48回開催する。)
1989. 8. 29 (平成元年)	石川県書写書道教育連盟設立総会 [ホテル六華苑] ＜平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定＞

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏 [金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭> [金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長> [石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長> [石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長> [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>	
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長> : 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長> : 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭> : 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課: [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	

*金沢地区

: 幼・保部:	青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部:	林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 中学校部:	干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
: 高校部:	林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
: 障害児学校部:	南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

: 小学校部:	穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
: 中学校部:	阿戸壯一郎<丸ノ内中教頭>
: 高校部:	東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
: 障害児学校部:	川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

: 小学校部:	西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
: 高校部:	蛸喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

:事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
:副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
:庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
:会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
:研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
:会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
:研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
:調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

1989. 11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
~17 ・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》
12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]
12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

(平成 2年度)

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19

第1回石川県書写書道教育研究大会
[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
公開授業 小学校2年・中学校1年・高等学校1年
講演 久米 公先生 (文部省視学官・千葉大学教授)
演題:「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」

11.19 第3回理事会
1991. 2. 23 第4回理事会
3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

(平成 3年度)

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]
10.30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18

第2回石川県書写書道教育研究大会
[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
公開授業 小学校1年・6年 学校公開 養護学校クラブ活動等
講演 續木湖山先生(帝京大学教授)
演題:「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」

11.18 第6回理事会 [野々市町文化会館]
1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]
3.30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

(平成 4年度)

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]
10.20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18

第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]
公開授業 中学校1年
講演 久米 公先生 (千葉大学教授) 演題:「学習指導の最適化のために」

11. 18 第9回理事会 [金沢市立鳴和中学校]
1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行
- (平成 5年度)
6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]
- 11.11 **第4回石川県書写書道教育研究大会**
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
公開授業 小学校3年 高等学校1年(2)
講演 田中東竹先生(実践女子大学教授)
演題:「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
11. 11 第11回理事会
3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
- (平成 6年度)
6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
- 10.19 **第5回石川県書写書道教育研究大会**[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
公開授業 小学校6年 高等学校1年
講演 柳下昭夫先生(東京家政大学講師・前教育課程審議会委員)
演題:「文字感覚を養い、自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」
10. 19 第13回理事会
12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行
- (平成 7年度)
6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行
- 10.20 **第6回石川県書写書道教育研究大会**[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
公開授業 小学校3年 研究発表 養護学校
講演 浦野俊則先生(二松学舎大学教授) 演題:「漢字は生きている」
10. 20 第15回理事会 [鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
- (平成 8年度)
4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行
- 11.21 **第7回石川県書写書道教育研究大会**[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校
講演 平形精一先生(静岡大学教授) 演題:「意欲を高めるための書写書道教育」
11. 21 第18回理事会 [石川県立金沢中央高等学校]

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行

(平成 9年度)

6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

11.21

第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]

公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校

講演 宮澤正明先生(山梨大学助教授)

演題:「実験を通して考える書写・書道」—「手本が無くてかかえる」をめざして—

11. 21 第20回理事会 [加賀市文化会館]

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行

(平成10年度)

7. 18 第21回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11. 2

第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]

公開授業 小学校3年 研究発表 中学校・大学

講演 平形精一先生(静岡大学教授)

演題:「これからの書写・書道教育の方向と課題」

11. 2 第22回理事会 [内灘文化会館]

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行

(平成11年度)

6. 16 第23回理事会 [六華苑]

9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

10.19

**第10回石川県書写書道教育研究大会
[七尾市立天神山小学校・七尾市立幼稚園・七尾サンライフプラザ]**

公開授業 小学校5年 公開学習 幼稚園 研究協議会

講演 久米 公先生(大東文化大学教授)

演題:「書写・書道教育における今日的課題」

10. 19 第24回理事会 [七尾サンライフプラザ]

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行

(平成12年度)

6. 9 第25回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

12. 7

第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]

パネルディスカッション 研究発表

12. 7 第26回理事会 [金沢勤労者プラザ]

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行

(平成13年度)

6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12. 6

第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]

研究協議

講演 町川 哲先生(香川県土庄小学校教諭)
演題:「書写指導における具体的実践にむけて」～香川県の実践をもとに～

12. 6 第28回理事会 [根上町総合文化会館]
2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行

(平成14年度)

8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10.23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行
第30回理事会 [野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]

12. 5

第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]

公開授業 小学校5年 研究協議

12. 5

(平成15年度)

2003. 8.27 第31回理事会 [六華苑]

12.4

第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町研修館・金沢大学サテライトプラザ]

研究協議

12. 4 第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

(平成16年度)

2004. 8.10 第33回理事会 [六華苑]
12. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行

12.10

第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・松任市立蕪城小学校]

公開授業 小学校3年・6年 研究協議

- 12.10 第34回理事会 [松任市市民交流センター]

(平成17年度)

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]

12. 9

第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]

研究協議

12. 9 第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

(平成18年度)

2006. 9.25 『書写コンテンツ』開発 (平成18～19年度)
第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

11.27	第17回石川県書写書道教育研究大会[石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校] 公開授業 小学校3年・高等学校1年 研究協議
11.27	第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]
(平成19年度) 2007.10.18	第39回理事会 [兼六荘]
12.4	第18回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立三谷小学校] 公開授業 小学校5年 研究協議
12.4	第40回理事会 [金沢市立三谷小学校]
(平成20年度) 2008.10.31	第41回理事会 [兼六荘]
12.12	第19回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫] 研究協議
12.12	第42回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
(平成21年度) 2009.8.27	第43回理事会 [兼六荘] 第44回理事会 「全日本書写書道教育研究会」団体加盟承認
12.2	第20回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立諸江町小学校・金沢市立高岡中学校] 公開授業 小学校5年 中学校1年(2) 研究協議 講演 法水光雄先生(福井大学教授・石川県書写書道教育連盟相談役) 演題 『石川県書写書道教育連盟設立と書写書道教育の将来 一人間が人間になること・文字を手書きすること』
12.2	第45回理事会 [金沢市立高岡中学校]
(平成22年度) 2010.9.30	第46回理事会 [兼六荘]
12.3	第21回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫] 研究協議
12.3	第47回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

平成22年度 石川県書写書道教育連盟役員

(☆:新 ★:役職変更) (敬称略)

役職	名 前	勤務先	職	備考
顧問	☆ 竹中 博康	石川県教育委員会	教育長	石川県教育委員会教育長
相談役	坂口 敏			
	久田 久信			
	米田 茂良			
	法水 光雄	福井大学教育地域科学部	教授	
	押木 秀樹	上越教育大学 学校教育学部	准教授	
参 与	吉田 一郎			
	森川 登夫			
	木本 峰生			
	谷村 修次			
	南 進			
	福田 教導			
	永井志津子			
	中山 武久			
	林 道子			
	石浦 義彦			
	林 昭悦			
名誉会長	★ 藤 則博	金沢大学	名誉教授	
会 長	☆ 宮下 孝晴	金沢大学人間社会学域人文学類	教授	
副 会 長	岩本 弘子	石川県教育委員会学校指導課	課 長	石川県教育委員会学校指導課長
	田中 辰実	千代野幼稚園	園 長	石川県私立幼稚園協会理事長
	☆ 志水 邦子	金沢市立夕日寺小学校	校 長	金沢市小学校教育研究会(書写代表)
	☆ 石井 秀雄	金沢市立芝原中学校	校 長	金沢市中学校教育研究会書写部長
	☆ 表 純一	石川県立金沢錦丘高等学校	校 長	石川県高等学校教育研究会書道部会長
	☆ 末平万紀子	石川県立ろう学校	校 長	石川県特別支援学校校長会代表
	★ 鈴木 寿子	金沢市立朝日小学校	校 長	石川書写の会会長
折川 司	金沢大学人間社会学域学校教育学類	准教授	金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者	
理 事 長	永江 芳教	石川県立金沢泉丘高等学校	教 諭	
副 理 事 長	中川 晃成	野々市町立館野小学校	教 諭	
	★ 濱田美恵子	金沢市立四十万小学校	教 頭	
	★ 高 隼子	七尾市立田鶴浜中学校	校 長	
	★ 古本 佳世	金沢市立兼六中学校	教 諭	
	☆ 市川 利明	石川県立ろう学校	教 頭	石川県特別支援学校教頭会代表
監 事・理 事	石野 昌子	金沢市立扇台小学校	教 諭	
★ 白石 芳子	金沢市立西南部中学校	教 諭	金沢市中学校教育研究会書写部会幹事長	
理 事(教育委員会)	谷藤真喜子	石川県教育センター研修課	指導主事	県教委 小・中学校(国語科書写)担当指導主事
☆ 中川 素子	石川県教育委員会学校指導課	主任指導主事	主任指導主事	県教委 高等学校(芸術科書道)担当指導主事
理 事(庶務部長)	[田中 学]	石川県立金沢中央高等学校	教 諭	
理 事	奥原せい子	輪島市立河井小学校	教 諭	
	☆ 高野 正人	七尾市立天神山小学校	校 長	
事務局長	岩田 稚子	金沢市立高岡中学校	教 諭	
副事務局長	八田 和幸	金沢市立高岡中学校	教 諭	
	水上真由美	石川県立金沢商業高等学校	教 諭	
	田中 学	石川県立金沢中央高等学校	教 諭	
庶務部	部 長	田中 学	石川県立金沢中央高等学校	教 諭
	副部長	佃 さえ子	白山市立松任小学校	教 諭
	部 員	西脇 良樹	志賀町立下甘田小学校	教 諭
		永井 重輝	金沢市立朝日小学校	教 諭
会計部	部 長	山田 千恵	加賀市立山代小学校	教 諭
	副部長	西尾恵美子	能美市立浜小学校	教 諭
	部 員	山口 雅美	金沢市立安原小学校	教 諭
	橋本 美紀	羽咋市立羽咋小学校	教 諭	
研究調査部	部 長	柿木 千鶴	白山市立松陽小学校	教 諭
	副部長	飯田 淳一	内灘町立清湖小学校	教 諭
	部 員	坂井 雪絵	志賀町立下甘田小学校	教 諭
		木之下知子	金沢市立杜の里小学校	教 諭
		堀 順一郎	野々市町立野々市中学校	教 諭
		倉下 真澄	金沢大学附属中学校	講 師
		間野 清美	白山市立旭丘小学校	教 諭
		東山麻由美	輪島市立鳳至小学校	教 諭
		金野 豊	金沢市立富樫小学校	教 諭
		榎木 充子	金沢市立諸江町小学校	教 諭
		黒川なつき	白山市立蝶屋小学校	教 諭
会報部	部 長	新谷 幸一	金沢市立馬場小学校	教 諭
	副部長	北野 京子	津幡町立中条小学校	教 諭
	部 員	寺井 純子	珠洲市立蛸島小学校	教 諭
		岸 瑞代	石川県立大聖寺高等学校	講 師
		山澤 聡美	小松市立芦城中学校	教 諭
		中辻 育代	小松市立稚松小学校	教 諭
		吉田 美晴	金沢市立浅野川小学校	教 諭
		水谷 清美	金沢市立千坂小学校	教 諭

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条 (名称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条 (目的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 (事業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
(1) 研究会の開催
(2) 会報の発行
(3) 関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
(4) 講演会・講習会の開催
(5) 調査研究
(6) その他必要な事業
- 第5条 (組織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条 (役員) 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
(1) 事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
(2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
(3) 役員の出選と任期は、下記のように定める。
(Ⅰ) 役員は理事会において選出する。
(Ⅱ) 役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
(Ⅰ) 理事会は必要に応じて、会長が召集する。
(Ⅱ) 理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条 (会計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条 (会計年度) 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条 (監査) 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

[附則]

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

新刊

生き生きとした 学校生活を送るための 総合質問紙調査



特長

- 支援を要する児童・生徒の把握に
- 学級経営・いじめ問題に
- ※約3万人のプレテストから全国値をサンプリングしています。
- 小学校1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用
- 中学校用

子どもの自己認識や学級適応をコンパクトに測る、i-checkの姉妹版が発売になります!



2011年9月発売予定
価格:330円(税込)

価格:1人あたり380円(税込)

キャンペーン価格:1人あたり340円(税込)*2011年8月31日ご注文分まで!

小学校

中学校

標準学力調査

●価格 1学年1教科340円(税込)/児童・生徒1人あたり



監修 梶田 敏一
兵庫教育大学学長

編集 加藤 明 小森 茂
京都ノートルダム女子大学教授 岡山学院大学教授

協力 無藤 隆
白梅学園大学教授 清泉の森女子大学教員

企画 野口克海
協力 岡山学院女子大学教授

基礎・基本の学習内容を中心に、生徒の学習到達度を確かめ、指導改善のしるべとして「確かな学力」の育成を支援します。

企画/制作・発行
東京書籍

●お申し込みお問い合わせ

東京書籍株式会社 評価事業本部営業部

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7451

北陸支社…〒920-0919 金沢市南町6-1 朝日生命金沢ビル Tel:076-222-7581

硯・筆・書道用品一式・水墨画用品一式
各種書画用額縁・表装・掛軸

文房四宝 文真堂

貸しギャラリー 文真堂 中国古美術 かしょう

石川県金沢市尾張町2丁目11の28 ☎(076)264-1836 FAX(076)264-1838

■営業時間/9:00~18:00 日曜日10:00~17:00 ■定休日/祝日 ■P/有

E-mail: bunshindo@nifty.com ホームページ: http://www.bunshindo.info/

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076)267-2077
FAX (076)267-2078

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液
天衣無縫 松潤

書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨

作品用書道液



Kuretake

株式会社 吳竹

〒630-8670 奈良市南宮崎町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

四 練習用から作品用まで

墨

墨液
(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



株式会社 墨運堂

〒630-8043 奈良市六条 1-5-35
TEL (0742) 52-0310
FAX (0742) 45-6880



伝統的工芸品 熊野筆 製造
併設全日本書作家継成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒731-4215 広島県安芸郡熊野町出来庭 2-2-44 TEL082(854)0019
FAX082(854)2112
大阪営業所 〒580-0014 松原市 岡 6 丁目 5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ" 熊野筆センター 広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-2-9 TEL082(222)1919

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

〒731-4215

本店 広島県安芸郡熊野町城之郷 2-2-45
TEL(082)854-0019 FAX(082)854-5222
東京 東京都台東区台東 3-42-4
霞道館東京久保田号ビル

高級洋紙類 各種特注紙 器具製作
高級木製類 各種封筒・糊立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免 4 丁目 - 6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851
4-K-V-7: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnnet.ne.jp

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材



株式会社

因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町 155 番地
TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811
E-mail insyuya@apionet.or.jp

日本画・洋画

壁襖
貼製
工作
事部

屏額掛
風装軸

美術
部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
TEL 075 (812) 3318

書の美しさ、楽しさを伝えたい。
光村の小・中・高 書写・書道教科書



光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
Tel 03-3493-2111 Fax 03-3493-2177
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

AO 能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場 ● 〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

(株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

書道、水墨画用品の激安専門店!

日本書道販売株式会社

ミドリヤ

本店 石川県小松市平面町カ203
TEL 0120-58-4344 FAX 0761-22-2992
営業時間 10:00~18:00
〔定休日・毎週水曜日〕



代理店

教材・教具・文具

藤田教材

能美市浜町甲19-3
TEL 0761-55-4183

教材・教具・OA機器・その他

(有)タカセ教材

小松市錦町28番地

TEL 0761(21)2186


FAX 0761(21)4868

本・学用品・事務用品・教材
ピアノ教室(株)ミュージッククラブ

スガイ書店

河北郡津幡町字津幡ハ13番地
☎ 289-4131 FAX 288-3799
E-mail:sugai@kanazawa-net.ne.jp

あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売 有限会社 本田教材社

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705

学校教材・文具・事務用品

奈良教材文具店



白山市新田町 10-3
TEL 076-274-6370

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町の41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 **布村教材社**

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

うつのみや

柿木島本店/金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111

年
松
井
秀
喜

大好評 ○名前書きの指導にぴったり
あなたのお名前
の手本を
サービス ○長年使えるパウチ加工
サービス ○中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 **ヤマガミ共育社**
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL. 291-1250 FAX.292-8008

書籍・文房具・教材・教具

栗津書店

栗津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 of 教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社**

金沢市石引4丁目4-4
☎(076)232-2425(代)

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9
TEL 267-0503 FAX 267-5271



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773

FAX 231-6940

学校教材なんでも


㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

参考書・心理検査・教材

金沢市福久町へ38番地3

 (株)教育統計会

TEL (076)258-5600

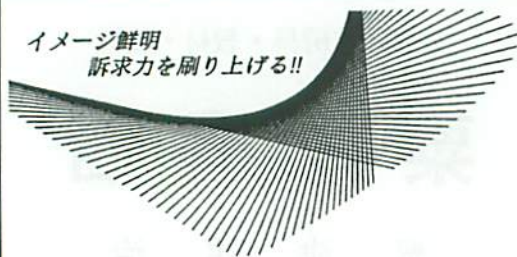
FAX (076)258-1808

学校教材販売 日本標準特約店

新 光 社

〒929-0341 河北郡津幡町横浜い158-6
TEL076-288-3835 FAX076-288-5782

イメージ鮮明
訴求力を刷り上げる!!



人・夢・色、あざやか。
 宮下印刷株式会社
〒920-0047 石川県金沢市大森町東町251番地
TEL(076)263-2486(FX) FAX(076)263-1234

第 21 回石川県書写書道教育研究大会 研究集録

発 行	平成 23 年 3 月
発 行 所	石川県書写書道教育連盟 〒920-1164 金沢市角間町 金沢大学教育学部書道研究室内
代 表 者	宮下孝晴
郵便振替	00740-9-1448
印 刷 所	能登印刷株式会社